

# 令和5年度事業報告書

一般財団法人AVCC

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

## 目 次

デジタル社会をどう生きるか、どう働くか.....	4
自ら考え行動するデジタル人材を育む.....	4
誰も置き去りにしないデジタル社会の実現.....	5
(1) アクセシビリティを高める情報端末とデジタルサービスの検討.....	5
(2) 「疎」を「密」にするデジタル環境の整備.....	5
(3) 地域の学びのプラットフォームの整備と普及.....	6
(4) コミュニケーションのバリアフリー.....	6
<b>Advanced Valuable Communicationの社会実装.....</b>	<b>7</b>
<b>I 自ら考え行動するデジタル人材を育む.....</b>	<b>8</b>
(1) 「デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～」企画・開催.....	8
(2) 「KK <sup>2</sup> キャリア相談室」の開設.....	9
(3) メールマガジン「メッセージfrom KK <sup>2</sup> 」の発行～多彩な執筆者によるメッセージ～...	10
(4) レジリエントを高めるプログラムの開発・提供.....	12
(5) デジタル公民館®活動.....	15
(6) 「IoT道場～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！～」開発・提供.....	22
<b>II Valuableコミュニケーションの社会実装.....</b>	<b>25</b>
(1) 「しごと力向上ライブラリ」の開発・提供.....	25
(2) コンピテンシー・チェック（Webチェックプログラム）.....	26
(3) 自治体DX推進支援.....	27
(4) 独立行政法人国際協力機構(JICA).....	30
(5) 各種運営支援業務（映像情報システムの構築、運用、保守管理業務）.....	30
<b>III KK<sup>2</sup>ブレンデッドラーニングによる人材育成支援.....</b>	<b>32</b>
(1) 組織内でのデジタル寺子屋.....	32
(2) KK <sup>2</sup> DPPによるブレンデッドラーニング.....	33
(3) 「KK <sup>2</sup> 協賛メンバーページ」の提供.....	36

(4) 教育機関への働きかけ.....	36
<b>IV 誰も置き去りにしないデジタル社会へ.....</b>	<b>38</b>
(1) コミュニケーション環境整備支援（インフラ）.....	38
(2) デジタル公民館®プラットフォームの運用.....	46
(3) テレボーサイ・サービス（情報格差是正支援）.....	48
(4) 「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」（東京都千代田区）...	49
<b>V 組織のデジタル化支援.....</b>	<b>49</b>
(1) 法人向けデジタル化支援事業.....	49
(2) KK <sup>2</sup> オンラインイベント支援事業.....	50
(3) デジタル情報発信・運営の支援.....	53
(4) デジタル人材育成の支援.....	53
<b>VI ステークホルダーとの関係.....</b>	<b>53</b>
(1) AVCC賛助会、KK <sup>2</sup> 協賛メンバーとの連携強化.....	53
(2) MOU締結組織.....	54
(3) KK <sup>2</sup> Web会員.....	56
(4) 文部科学省発行「マナビィ・メールマガジン」定期掲載.....	56
(5) 霞が関7号館PFI株式会社との事業連携.....	58
(6) 「千代田区霞が関三丁目町会」活動（東京都千代田区）.....	58
(7) 社会への情報発信.....	58
(8) KK <sup>2</sup> 自主企画プログラムと述べ参加者数.....	59
<b>VII 運営に関する事項.....</b>	<b>60</b>
(1) 役員名簿.....	60
(2) 会議の開催.....	60
(3) 会員等（令和6年3月）.....	61

## デジタル社会をどう生きるか、どう働くか

令和5年度、生成AIの急速な普及もありデジタル社会の変化はますます加速し、日々アップデートすることに汲々として過ごした一年でした。デジタル公民館KK<sup>2</sup>が主宰した「デジタルTERA小屋」には7名のエキスパートにご登壇いただき、「デジタル社会をどう生きるか、どう働くか」について専門的立場からご発表いただき、多くの皆さまにご参加いただき共に考え共に学ぶ場で議論を深めました。



デジタルTERA小屋で山本龍彦先生が提起された、偏った情報ばかり摂取することで損なわれる「情報的健康」について得心された方は多いと思いますが、このことに気が付いていない多くの日本人の「情報的健康」をどう保つのか、デジタル社会の今後の課題が明らかになりました。また、Society5.0が掲げる「格差や分断の無い人間中心の社会」については、むしろ格差が拡大します分断が深まっています。一人ひとりが与えられた今に安住せず、老若男女を問わず日々学び続けるパラダイムシフトが不可欠なことを再確認する一年でした。

## 自ら考え行動するデジタル人財を育む

かつての日本人に求められたリテラシー「読み書き算盤」は今日「読み書きデジタル」に変わりましたが、GIGAスクール構想対象世代を除くすべての日本人は、デジタル（ICT環

境下でICTを活用する) に関して公的教育を受けたことはありません。一方多くの民間企業では競争力を高めるためにDX (デジタルトランスフォーメーション) を進めており、従業員は業務遂行のためにデジタルを身に着けることが求められます。

企業内でデジタルに関する教育訓練の場は少なく、本人の「自学自習」と職場内での「学び合い」により習熟することで働いてきました。DXと縁の無い業態ではこういった機会に恵まれず、デジタルについて学ぶ機会はありません。デジタル技術は日々変化し技術革新がめまぐるしく、一人の先生に多数の生徒が教えてもらう受動的な学びではアップデートは間に合いません。自分自身で積極的に変化や技術革新をフォローし、得意な人が周りの不得手な人を指導する能動的学び合いが求められます。

かつて土農工商の身分に拘らず地域の寺子屋で庶民が「読み書き算盤」を身に着け、後の明治維新を乗り切ったように、令和の今各地域の公民館等で老若男女が「読み書きデジタル」を学び合うコミュニティが立ち上がり、日本社会が格差や分断の無い人間中心のデジタル社会に進むことを期待する一年でした。

## 誰も置き去りにしないデジタル社会の実現

令和5年度実施した「[\[超高齢社会×デジタル社会\]アンケート集計と考察](#)」により得た情報から、デジタルデバイドを解消し、すべての日本国民がデジタル社会の恩恵を等しく受けられることを目指して、以下のような取り組みを行いました。

### (1) アクセシビリティを高める情報端末とデジタルサービスの検討

スマホが使えない、持たない人々に向けて、操作が簡単で、高齢者等デジタルリテラシーが乏しい方でも使いやすい情報端末の要件を検討しました。大きく少数の操作ボタン、複数色発光するLED、端的で大きな文字表示、音声操作機能などが集約され、マニュアルを読まなくても感覚的に操作できるコミュニケーションツールの普及を目指し、そのサービスレベルを検討しました。

### (2) 「疎」を「密」にするデジタル環境の整備

高齢者に限らず「御独りさま率」がどんどん高まり、コミュニティ内でのリアルな人と人の

繋がりは「疎」に向かっています。このことをデジタル環境で補いコミュニケーションを「密」に保つことがデジタル社会では重要です。公共の場所における無料Wi-Fiエリアの拡大や、各戸でインターネットにアクセスできるデジタルサービスの整備を検証しました。

### (3) 地域の学びのプラットフォームの整備と普及

デジタル公民館まっさきとデジタル公民館やねだんでは、公民館やコミュニティスペースといったリアルな場にデジタル環境を整備し「デジタル寺子屋」活動を志向しました。デジタル公民館まっさきでは、3.11東日本大震災以降継続して活動したITボランティアが被災された方々の実体験談を傾聴し、この地域の「レジリエンス」について学ぶ活動でアーカイブした収録映像を「けせんに学ぶ」に纏め公開しました。アーカイブした数多くの動画には、レジリエントな個人・レジリエントなコミュニティを実現する為に必要な、「心と身体両面での自己回復力や適応力」、「人と人の絆を高め支え合う力」等のヒントが溢れています。また高齢者自らが竹細工を通じてのものづくりの楽しさを伝えるどこ竹@武蔵野三鷹・末崎グループが継続的に活動する地域再生の取り組みを取材し、「門松づくり教室」準備編と教室編としてデジタルアーカイブし全世界へ情報発信しました。

年2回開催されるやねだん故郷創世塾では、デジタルリテラシー向上のためのワークショップをDPP（デジタルプレゼンテーションプラットフォーム）を活用しKK2からオンライン配信しました。デジタルデバイドの解消は講師を派遣する発想ではなく、地域の中で得意な若者が不得手な高齢者を対面で指導する学び合いの環境を目指す、即ちデジタル公民館<sup>®</sup>活動の普及啓発を行いました。

### (4) コミュニケーションのバリアフリー

ANAグループの特例子会社（航空業界初）であるANAウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社様の全面のご支援の下で、『障がい当事者が語る！コミュニケーションのバリアフリー』を開発制作し、全17本の「動画」と「理解度確認テスト」を無償公開致しました。この講座は、障がいとは何かを理解し、障がい者の方とのコミュニケーションの取り方を学ぶプログラムです。肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい、精神障がい、発達障がい、知的障がい、加齢に伴う障がいを取り巻く状況を把握し、障がい当事者が講師となって解説するこれま

でないプログラムです。全国の企業・組織・地域での研修と意識改革に是非ご活用下さい。

私たちは、障がいの有無にかかわらず全ての人がコミュニケーションに参加できる機会の均等を目指します。特に社会的包摂とアクセシビリティを強調し、あらゆる形態の障壁を克服することに注力し、誰も置き去りにしないコミュニケーションのバリアフリーを目指します。

## Advanced Valuable Communicationの社会実装

デジタル社会では多様なコミュニケーションツールが次々と登場し、その利便性やスピード感の向上には目を見張るものがあります。しかしコミュニケーションツールだけで、本当に高度な価値のあるコミュニケーションが実現するわけではありません。多くの情報がリアルタイムに共有できますが、肝心のその「情報内容」が受け手にとって受け入れやすい内容でしょうか。発信者の情報内容は、自らの意見や考えを伝えることに重きを置き、受け手の感情や立場を十分に考慮していないことが多々あります。「Advanced Valuable Communication」を実現するために次の三点が重要であると認識しました。

- (1) 対話を重視する。受け手の反応や意見を真摯に受け止め、理解と共感を深める。
- (2) 質の高い情報提供。相互信頼の下で信頼性のある情報を提供する。
- (3) 意見の違いを認め合う。違いを認め合意できることを明確にする。

もう一つ重要なことは、コミュニケーションツールの円滑な運用です。昨今多様なコミュニケーションツールが利用できますが、その機能は多種多様でありツールを使い分けたり機能を組み合わせるハイブリッドな利活用も考えられます。また「情報内容」についてはAVCCのルーツでもある「Audio Visual」が重要であり、どんなに優秀なコミュニケーションツールであっても、「聴きやすい音声」と「分かり易い映像」を実現するが大前提となっています。コミュニケーションツールの利用は手段であり「適正な運用」が不可欠です。

「Advanced Valuable Communication」を実現するために私たちは、「ツール」と「情報内容」と「適正な運用」の三位一体が必要であることを再認識しました。

以上

## I 自ら考え行動するデジタル人材を育む

### (1) 「デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～」企画・開催

KK<sup>2</sup>では江戸時代に全国へと広がった「寺子屋」をヒントに、デジタル時代におけるTERAサイズの学びの場「[デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～](#)」をシリーズで開催しています。既存の枠組みにとらわれず新たな価値の創造や課題解決に取り組むエキスパートと共に、「デジタル社会をどう生きるか」について、参加者のみなさんと共に学ぶ双方向形式のプログラムです。ゲストからお話を伺った後、ゲストとモデレーターとのクロストーク、そしてDPPを活用して参加者の方からのコメントや質問で議論を深めていきます。



図-1 令和5年11月30日開催 デジタルTERA小屋 藤原瑠美さん

令和5年度は、災害と人権、情報的健康、障がい者雇用、農業、職業とAI活用、介護といった幅広いテーマで活躍するゲストを6名お招きし、会場参加とライブ配信のハイブリッドで開催、合計344名にご参加いただきました。

## デジタルTERA小屋 ～エキスパートと学ぶ～



4/19開催  
「災害大国日本で考える、  
人権と尊厳」  
石井美恵子さん



6/6開催  
「障がい者「が」働く、障がい者  
「と」働く」  
俣野公利さん



9/14開催  
「深く考えられる人間に  
なろう～発明者の想いを  
形にする「弁理士」の  
ChatGPT活用法」  
黒瀬泰之さん



5/26開催  
「情報的的健康について」  
山本龍彦さん



7/5開催  
「野菜を伝える、野菜で伝える  
～田畑は人も育つ場所～」  
設楽哲也さん



11/30開催  
「自宅で母と夫を看取り、一人になってしみじみ思うこと～「介護」が愛おしい～」  
藤原瑠美さん

デジタルTERA小屋	開催日	会場参加者	オンライン参加者	属性内訳			動画視聴者数	合計
				メンバー	Web会員	学生		
災害大国日本で考える、人権と尊厳 第4回 デジタルTERA小屋 石井美恵子さん	2023/4/19(水)	15名	16名	18名	11名	2名	203名	234名
情報的的健康について—アテンション・エコノミーにどう向き合うか 第5回 デジタルTERA小屋 山本龍彦さん	2023/5/26(金)	83名	68名	81名	70名	0名	201名	352名
障がい者「が」働く、障がい者「と」働く 第6回 デジタルTERA小屋 俣野公利さん	2023/6/6(火)	23名	28名	34名	17名	0名	101名	152名
野菜を伝える、野菜で伝える～田畑は人も育つ場所 第7回 デジタルTERA小屋 設楽哲也さん	2023/7/5(水)	17名	18名	11名	23名	1名	126名	161名
深く考えられる人間になろう～発明者の想いを形にする「弁理士」のChatGPT活用法第8回 デジタルTERA小屋 黒瀬泰之さん	2023/9/14(木)	19名	20名	31名	8名	0名	119名	158名
自宅で母と夫を看取り、一人になってしみじみ思うこと～「介護」が愛おしい～第9回 デジタルTERA小屋 藤原瑠美さん	2023/11/30(木)	18名	19名	14名	20名	3名	98名	135名
合計		175名	169名	189名	149名	6名	848名	1,192名

## (2) 「KK<sup>2</sup>キャリア相談室」の開設

KK<sup>2</sup>は就職紹介ではない、キャリア相談に特化したカウンセリングが特徴で、専門資格を持ったカウンセラーに相談できる「[KK<sup>2</sup>キャリア相談室](#)」を開設しています。転職や就職はもちろん、仕事や職場で気になること、仕事と家庭とのバランスの取り方や将来についての漠然とした不安など、幅広いテーマについて第三者に安心して相談できる場です。

特定非営利活動法人日本キャリア開発協会(JCDA)様にご協力をいただき、様々な経歴を持つ経験豊富な5名のカウンセラーが担当しています。申込は、KK<sup>2</sup>Webサイトより、希望の日時、

カウンセラーを選択します（50分 税込5,500円、毎週月曜日～金曜日 10時開始～20時終了）。また、オンラインと対面を選ぶことができます。

また年4回定例会議を開催し、JCDA様、アドバイザーの伊庭野基明氏（KK<sup>2</sup>グローバルキャリアカウンセラー/AVCC理事）、担当カウンセラー、KK<sup>2</sup>事務局により、運営にあたっての改善点や課題等について議



論する場を設けています。令和5年度も4回開催しました。

令和5年度は14名（オンライン10名/対面4名）の方にご利用いただきました。年代は、アソシエイト(14%)、リーダー(86%)、相談事項は、今後のキャリア(79%)、転職(14%)、その他(7%)でした。

### （3）メールマガジン「メッセージfrom KK<sup>2</sup>」の発行～多彩な執筆者によるメッセージ～

KK<sup>2</sup>Web会員向けにメールマガジンを定期配信しています（毎週金曜日）。令和5年度は、メッセージの寄稿者をこれまでの4名から拡大し、AVCC久保田了司、久保田庸弘、KK<sup>2</sup>事務局の他、古賀伸明氏、伊庭野基明氏、平田英世氏、秋田義一氏、田中純一氏、鎌田修広氏、永岡慶三氏、華井弘子氏、柴田文啓氏に寄稿いただき様々な視点からメッセージを発信しました。メッセージはKK<sup>2</sup>Webサイトに[バックナンバーを掲載](#)、[公式YouTubeでAI読み上げ動画](#)（YouTubeへのリンク）を掲載し、音声情報としても発信しています。

令和5年度は54回配信し、購読者数は17,487名（令和5年3月31日時点）、平均開封率は27.76%でした。

配信日	発行号	タイトル	担当
2024/3/29	831	障がい当事者のリアルな声に耳を傾けてみませんか～コミュニケーションのバリアフリー実現に向けて～	山田瑞恵
2024/3/22	830	3月8日「国際女性デー」に思う	古賀伸明
2024/3/15	829	デジタルネイティブ最前線-小学生にコミュニケーション教育を-	秋田 義一
2024/3/8	828	キャリアの多段ロケット	伊庭野基明
2024/3/1	827	阿部秀司氏が選した日本映画を偲ぶ	久保田了司
2024/2/23	826	クーデターから3年 早急に民主主義と平和の回復を	古賀伸明
2024/2/16	825	コンピュータシステムとトラブルについて	平田英世
2024/2/9	824	「どこが問題なのか」-変わるか日本-	伊庭野基明
2024/2/2	823	自販機の飲み物をスマホで買ってみました!	久保田了司
2024/1/26	822	災害多発の日本 防災の再点検を	古賀伸明
2024/1/19	821	「避難所は体育館」の先入観から抜け出そう!	秋田 義一
2024/1/12	820	「問題の構造を変えなければ、、、」-デジタル競争力、日本32位-	伊庭野基明
2024/1/5	819	新春書初めで『無事』と書いたのですが	久保田了司
2023/12/29	818	2023年も大晦日が近づいてまいりました	久保田庸弘
2023/12/22	817	自分自身の今年は何?	古賀伸明
2023/12/15	816	コミュニケーションのバリアフリーを目指す	久保田了司
2023/12/8	815	在宅介護と看取りの深い学び -デジタルTERA小屋第9回を開催しました-	伊庭野基明
2023/12/1	814	「戦争のない地球」は空想なのでしょうか	柴田 文啓
2023/11/24	813	即時停戦せよ	古賀伸明
2023/11/17	812	「まちの防災発見ツアー」体験記	秋田 義一
2023/11/10	811	これからのグローバル世界をどう生きるか?	伊庭野基明
2023/11/3	810	超高齢社会 × デジタル社会 = どのような社会?	久保田了司
2023/10/27	809	サザンが歌う神宮外苑再開発への懸念	古賀伸明
2023/10/20	808	持続可能なワイン造りと多様性	華井弘子
2023/10/13	807	人間に残される最後の領域 -既にAIは「心」を得たか? -	伊庭野基明
2023/10/6	806	「学びの秋」KK2は学びと行動変容の背中を押しつづけます	久保田了司
2023/9/29	805	「夜の「露が闇」に飛び出そう/まちの防災発見ツアー★10月20日開催	山田瑞恵
2023/9/22	804	ハチ公 生誕100周年	古賀伸明
2023/9/15	803	受援力を磨こう	秋田 義一
2023/9/8	802	弁理士の黒瀬さん聞く -生成AI(ChatGPT)をどう使うか-	伊庭野基明
2023/9/1	801	関東大震災から100年、あなたはどのよう行動しますか!	久保田了司
2023/8/25	800	不覚にも新型コロナウイルスに感染	古賀伸明
2023/8/18	799	“Two Way or Go Away”双方向にあらざれば去れ	永岡慶三
2023/8/11	798	生成AI(ChatGPT)利用の現在地-どうする日本? -	伊庭野基明
2023/8/4	797	「猛暑」「気候変動」とどう向き合うか!	久保田了司
2023/7/28	796	暑い夏は“鎮魂の祈り”の季節	古賀伸明
2023/7/21	795	「ダイバーシティ」対話を磨き、多様な人材が活躍できる社会へ	秋田 義一
2023/7/14	794	「自ら考え行動するデジタル人材」へ向けて-KK2デジタルTERA小屋-	伊庭野基明
2023/7/7	793	あなたは「令和の黒船」とどう向き合いますか?	久保田了司
2023/6/30	792	アラカンモンスターを探せ!!! 還暦前後の底力	鎌田 修広
2023/6/23	791	人間と自然の関係を問い直したパンデミック	古賀伸明
2023/6/16	790	デジタル推進委員に任命されたのですが...	田中純一
2023/6/9	789	AI時代に生きる日本人と日本社会-新たなテーマを考える時-	伊庭野基明
2023/6/2	788	Advanced Valuable Communicationの社会実装	久保田了司
2023/5/26	787	女性をはじめ多様な人材を議会へ	古賀伸明
2023/5/19	786	災害は忘れる前にもやってくる-自分事として備えよう-	秋田 義一
2023/5/12	785	AI革命と人間のしごと力-冷静な目で関係性を考える-	伊庭野基明
2023/5/5	784	「こどもの日」子や孫の世代に先送りしない行動を!	久保田了司
2023/4/28	783	私たちはWBCから何を学んだか	古賀伸明
2023/4/21	782	DX時代を先取りする新しいデータ活用・ビジネスモデル事例のご紹介	平田英世
2023/4/14	781	人は変わる -「KK2キャリア相談室」ご活用の勧め-	伊庭野基明
2023/4/7	780	春、卒業50年で参列した入学式で感動しました	久保田了司

#### (4) レジリエントを高めるプログラムの開発・提供

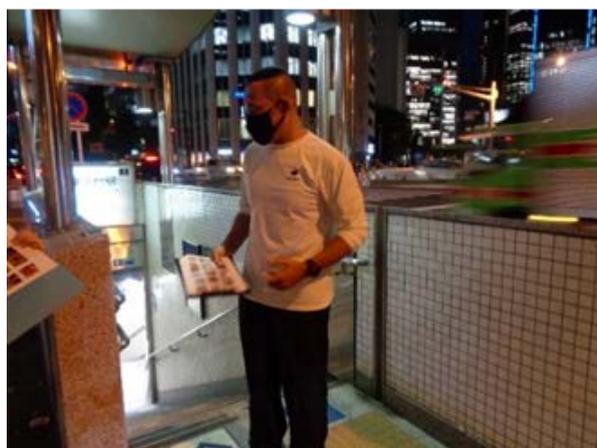
AVCCでは「変化にしなやかに対応する力」を「レジリエンス」と定義しています。未曾有の災害や大きな変化に対応できるレジリエントな個人・コミュニティの実現を目指し、共に考え学ぶ場を提供しました。

##### -1 防災の視点からレジリエンスを学ぶプログラムの開催

KK<sup>2</sup>ではレジリエンス人材育成トレーナー [鎌田修広さん（株式会社タフ・ジャパン代表）](#) にご協力いただきレジリエンスを学ぶプログラムを平成25(2013)年より提供しています。令和5年度は2回のプログラムを開催しました。個人のレジリエンスを高める場、また参加者同士のグループワーク等を通して交流や学びを深める場を提供しました。

##### ① [まちの防災発見ツアー～夜の“霞が関”に飛び出そう！～](#)

虎ノ門・霞が関界隈を歩き、防災に役立つ「もの(AED・公衆電話など)」や「場所(避難所)」などを巡る「歩いて・気づいて・調べて・学ぶ」体験型のワークショップを令和5年10月20日に開催しました。定員15名の方にご参加いただき、グループでの発表や交流の時間も交え、楽しく学ぶ場となりました。開催内容については講義内容を一部オンデマンドで公開、またレポートを掲載しました。



令和5年10月20日開催 プログラム風景

##### ② [働くあなたの防災体験ツアー～霞が関ビルディングに学ぶ～](#)

日本初の超高層ビル「霞が関ビルディング」を運営する三井不動産ビルマネジメント株式会社

霞が関オフィス様にご協力いただき、グッドデザイン賞に輝いた防災センターの見学、備蓄品、非常用機器の操作体験などができるプログラムを令和6年3月15日に開催しました。定員16名の方にご参加いただき、開催内容は、アーカイブ動画の公開は行いませんでしたので、KK<sup>2</sup>Webページにレポートを掲載しました。



令和5年10月20日開催 プログラム風景

まちの防災発見ツアー	開催日	会場参加者	属性内訳			動画視聴者数	合計
			メンバー	Web会員	一般		
まちの防災発見ツアー ～夜の“霞が関”に飛び出そう！～	2023/10/20(金)	15名	8名	7名	0名	88名	103名
働くあなたの防災体験ツアー ～霞が関ビルディングに学ぶ～	2024/3/15(金)	16名	7名	9名	0名		16名
	合計	31名	15名	16名	0名	88名	119名

## -2 霞が関坐禅会 ～自分自身と向き合ってみよう～

臨済宗妙心寺派東京禅センター様にご協力いただき、法話と坐禅がセットになった「霞が関坐禅会」を企画・開催しています。仕事帰りに気軽に参加していただけるように、初心者の方向けにもわかりやすい解説を行い、また椅子坐禅も用意しています。

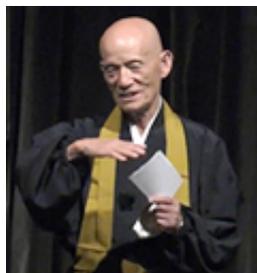
日頃忙しいビジネスパーソンが、自分自身と向き合いリフレッシュしていただく場として活用していただいています。またビジネス経験豊富な講師の法話



は、様々な心配事や悩み解消のヒントになると好評です。

コロナ禍を受けて対面開催からオンライン開催に変更していましたが、令和5年3月より3年ぶりに対面での開催を再開しました。令和5年度は以下の通り3回開催しました。

- ・ 6月22日(木)開催 第十三回霞が関坐禅会  
 法話テーマ：「煩惱無尽誓願断-煩惱とはなんですか？静かに心を観察する」  
 講師：柴田文啓さん（長野県千曲市 開眼寺住職）、  
 並木泰淳さん（台東区 金龍寺住職）
- ・ 11月9日(木)開催 第十四回霞が関坐禅会  
 法話テーマ：「衆生近きを知らずして・・・呼吸と体内生命の再確認」  
 講師：柴田文啓さん（長野県千曲市 開眼寺住職）、  
 太田 宗誠さん（臨済宗妙心寺派 宗門活性化推進局）
- ・ 令和6年3月7日(木)開催 第十五回 霞が関坐禅会  
 法話：「手放した後に何が残る？・・・禅とは気づき」  
 講師：太田 宗誠さん（臨済宗妙心寺派 宗門活性化推進局）



柴田文啓さん



並木泰淳さん



太田 宗誠さん

霞が関坐禅会	開催日	会場参加者	属性内訳		動画視聴者数	合計
			メンバー	Web会員		
「煩惱無尽誓願断-煩惱とはなんですか？静かに心を観察する」第十三回霞が関坐禅会～自分自身と向き合ってみよう～	2023/6/22(木)	11名	5名	6名	59名	70名
「衆生近きを知らずして・・・呼吸と体内生命の再確認」第十四回霞が関坐禅会～自分自身と向き合ってみよう～	2023/11/9(木)	14名	7名	7名	256名	270名
「手放した後に何が残る？・・・禅とは気づき」第十五回霞が関坐禅会～自分自身と向き合ってみよう～	2024/3/7(木)	13名	2名	11名	83名	96名
合 計		38名	14名	24名	398名	436名

## (5) デジタル公民館<sup>®</sup>活動

都会も地域も高齢者だけでなく「御独りさま率」が高まり、コミュニティでのリアルな人と人の繋がりは「疎」に向かっている現在、デジタルを活用しコミュニケーションを「密」に保つことがデジタル公民館<sup>®</sup>活動が目標としている姿です。デジタルデバイドの解消と地域や住民活動の活性化支援を目指し、AVCCはデジタル公民館<sup>®</sup>活動を推進しています。

誰も置き去りにしないデジタル社会 -KK<sup>2</sup>デジタル公民館<sup>®</sup>-

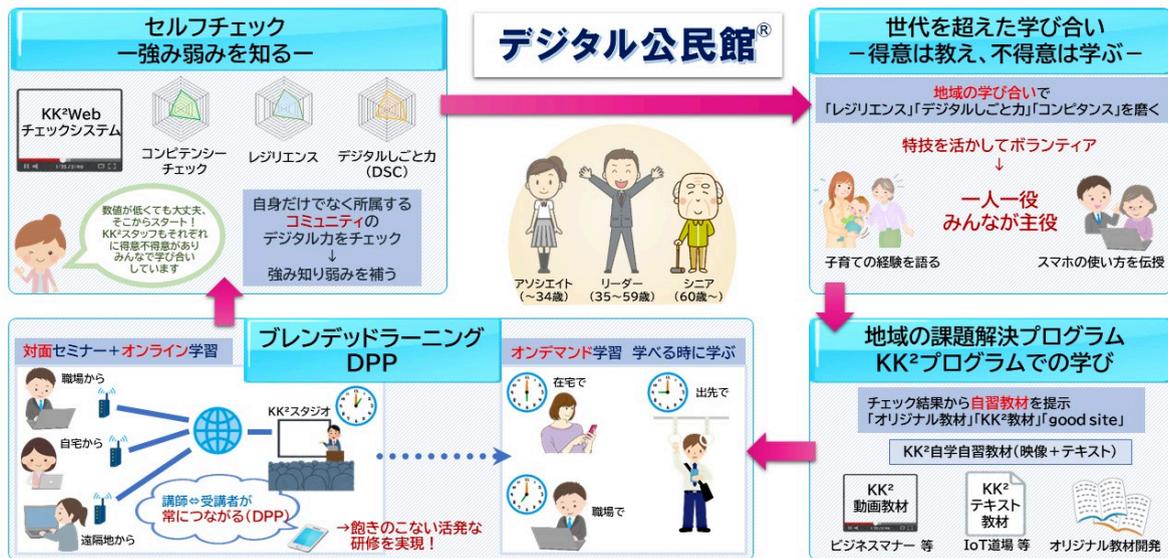


図-2 デジタル公民館<sup>®</sup>サイクル

### -1 地域のデジタル公民館<sup>®</sup>活動支援 ～まっさき、やねだん～

デジタル公民館<sup>®</sup>活動の一環として、地域のデジタルデバイドの解消や地域の魅力を発信を実現するサポートを行っています。対面とデジタルを組み合わせ、住民の方々の活動が活性化することを目指しています。地域の公民館やコミュニティスペースにデジタル環境を整備しているまっさき（岩手県大船渡市末崎地区公民館）、やねだん（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落）における「デジタル寺子屋」活動の実現を目指して令和6年度の活動を行いました。

#### ①[超高齢社会×デジタル社会]アンケートの実施

高齢者が抱える「生きづらさ」とデジタル活用状況の関連性を考察するためにアンケート

を実施し、デジタルデバイドを解消しすべての日本国民がデジタル社会の恩恵を等しく受けられることを目指しAVCCとして何ができるのかについて検討を行いました。

集計結果から「考察①高齢者はどんな『生きづらさ』を抱えているか?」「考察②高齢者のコミュニケーションとデジタル活用の課題」「考察③高齢者が地域社会で活躍することの意義と課題」という3つのポイントをまとめた[「\[超高齢社会×デジタル社会\]アンケート集計と考察」](#)（調査結果へのPDFへのリンクです）を令和6年1月22日にWebサイト等に公開しました。まさき、やねだんの皆さまをはじめ、ご協力いただきました皆様に改めてお礼を申し上げます。

以下、考察の項目のみ紹介いたします。詳細は調査結果PDFをご覧ください。考察の結果を元にAVCCとして取り組めることは何かについて今後、継続的に検討をすすめていきます。

考察①：高齢者はどんな「生きづらさ」を抱えているか？

1. 体力の衰えに健康習慣の実践が肝要
2. サポート不足には「支え合い」
3. 社会的孤立感とコミュニケーション
4. 情報収集や手続きのデジタルサポート

考察②：高齢者のコミュニケーションとデジタル活用の課題

1. 健康情報へのアクセシビリティ向上
2. 「疎(うとい)」を「親(したい)」に転換する地域コミュニティへ
3. 「学び合い」でデジタルデバイド解消
4. 高齢者を置き去りにしないデジタル社会を

考察③：高齢者が地域社会で活躍することの意義と課題

1. 高齢者の持つ潜在的な意欲
2. 知識と経験の伝承は貴重な資源
3. 生きがいの提供
4. 高齢者のデジタルスキル向上

【アンケート実施概要】

- ・アンケートの目的：
  - (1)高齢者の「生きづらさ」の実情
  - (2)高齢者のコミュニケーションとデジタル活用の課題
  - (3)高齢者が地域社会で活躍することの意義と課題を明らかにすること
- ・対象者：高齢者65歳以上、高齢者世帯または在宅独居高齢者
- ・期間：令和5年11月3日～令和6年1月4日
- ・記入方法：本人記入、支援者による聴き取り
- ・依頼先：メッセージ from KK<sup>2</sup>メルマガ読者、岩手県大船渡市 居場所ハウス、  
鹿児島県鹿屋市 やねだん集落、山梨県北杜市 有志、縁者の皆さま、AVCC職員
- ・回収数：175人（内聴き取り 35人） / オンライン回答：80人・用紙記入：95人
- ・実施者：一般財団法人AVCC

②「デジタル公民館まっさき」活動（岩手県大船渡市末崎地区）

3.11東日本大震災以降、コロナ禍を受けて対面での活動を休止するまで「PCスマホよろず相談教室」を継続してきました。活動の中で、ITボランティアが被災された方々の実体験談を傾聴し、地域の「レジリエンス」について学んだ内容を収録したアーカイブ映像をKK<sup>2</sup>Webサイトで公開をしていましたが、令和5年度にあらためて「[けせん（気仙）に学ぶ～自然災害と向き合う人と人の絆【実体験アーカイブ】](#)」として、24本の動画をまとめたWebサイトの公開準備を進めました（公開は令和6年4月11日に行いました）。アーカイブした数多くの動画には、レジリエントな個人・レジリエントなコミュニティを実現する為に必要な、「心と身体両面での自己回復力や適応力」、「人と人の絆を高め支え合う力」等のヒントが溢れています。多くの方に御視聴いただけるようにPRを進めています。



また、高齢者が講師を務め、竹細工を通じてものづくりの楽しさを子どもたちや地域の方々に伝える「どこ竹@武蔵野三鷹・末崎グループ」が毎年12月に開催している「門松作り教室」を取材・収録し、[「門松づくり教室 - どこ竹まっさき に学ぶ -」](#)を公開しました。門松づくり教室の準備から当日の運営までノウハウを学ぶことができます。

- ・門松づくり教室 - どこ竹まっさき に学ぶ - 【①準備編】 (09分55秒)
- ・門松づくり教室 - どこ竹まっさき に学ぶ - 【②教室編】 (12分03秒)



なお、まっさき地区公民館の職員の方が毎月更新をしている[デジタル公民館まっさきのWebサイト](#)運営の支援も継続して行いました。



③「デジタル公民館やねだん」活動（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落）

やねだん自治公民館に設置したデジタル公民館機能（TV会議システム、Wi-Fi等）を活用しデジタル化を支援しています。[豊重哲郎 自治公民館長](#)が塾長を務める「[やねだん故郷創世塾](#)」（年2回やねだんで開催/令和6年3月31日現在 卒塾生1,263名）で、DPPを活用したデジタルリテラシー向上を目指すワークショップをKK<sup>2</sup>からオンライン配信しています。デジタルデバイドの解消を目指し、講師の派遣ではなく地域の中で得意な人が不得手な人を対面で指導する学び合いの環境づくりを目指す、デジタル公民館®活動の普及促進をすすめています。

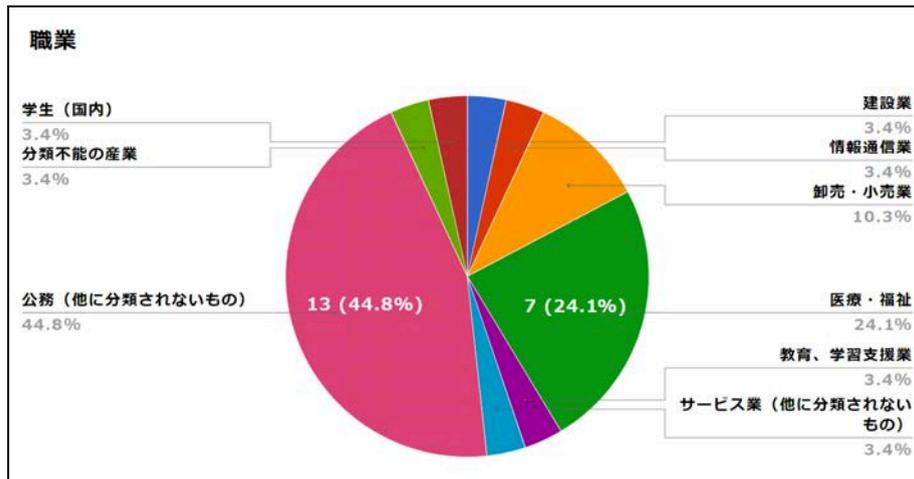


図-3 やねだん故郷創世塾のオンライン講義 イメージ図

令和5年度は、KK<sup>2</sup>代表 久保田了司による双方向オンライン講義を2回開催しました。

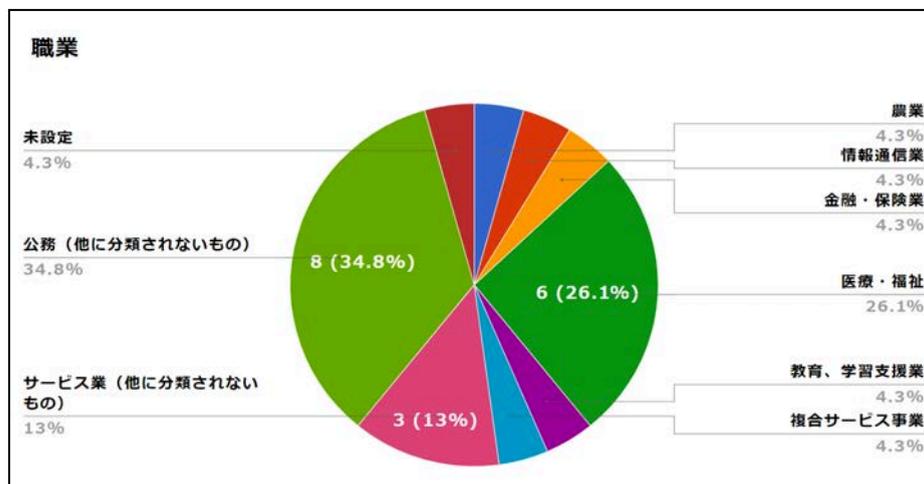
- ・ 5月13日(土)「第33回やねだん故郷創世塾」

[「令和の黒船にどう立ち向かうか？」](#) 27名参加



- ・ 11月11日(土)「第34回やねだん故郷創世塾」

[「超高齢社会 × デジタル社会」をどう生きるか？](#) 22名参加



またWebサイト「やねだん」の運営業務、講師と卒塾生の情報共有の場であるメーリングリストの運営業務を継続して行いました（令和6年3月時点 196名登録）。



## -2 文化に親しみ交流する2

### ①霞が関寄席

毎回満員御礼の人気プログラム「[霞が関寄席](#)」。  
 忙しビジネスパーソンが仕事帰りに古典芸能に気軽に触れることができるプログラムです。令和5年度は、会場とライブ配信のハイブリッド形式で3回開催しました。合計303名の方に会場参加をいただき、ライブ配信には合計107名の方ご参加いただきました。



- ・ 5月19日(金)開催「五月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会」  
 (金原亭馬玉さん、金原亭駒与志さん)
- ・ 9月1日(金)開催「チャリティー霞が関寄席 金原亭駒与志独演会 ～処暑の大見得～」  
 (金原亭駒与志さん、金原亭馬太郎さん、佐々木亜希子さん：活動弁士)
- ・ 12月8日(金)開催「十二月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会」  
 (金原亭馬玉さん、金原亭駒与志さん)

なお、9月に開催したチャリティー霞が関寄席の収益の一部は、デジタル公民館活動にご寄付いただきました。お礼を申し上げます。

霞が関寄席	開催日	会場参加者	オンライン参加者	属性内訳			動画視聴者数	合計
				メンバー	Web会員	一般		
五月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会	2023/5/19(金)	102名		27名	35名	40名	60名	162名
【ライブ配信】五月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会			39名	13名	26名			39名
チャリティー霞が関寄席 金原亭駒与志独演会 ～処暑の大見得～	2023/9/1(金)	101名		25名	46名	30名	35名	136名
【ライブ配信】チャリティー霞が関寄席 金原亭駒与志独演会 ～処暑の大見得～			41名	15名	26名			41名
十二月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会	2023/12/8(金)	100名		25名	40名	35名	82名	182名
【ライブ配信】十二月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会			27名	8名	19名			27名
合計		303名	107名	113名	192名	105名	177名	587名

## (6) 「IoT道場～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦!～」開発・提供

IoT (Internet of Things モノのインターネット) とは、ヒトとモノをインターネットに繋ぐことにより、遠隔での状況確認やリモートコントロールが可能になることです。例えば、出先からスマートフォンでTV番組を録画することができたり、身近な課題をIoTを活用して解決することができます。

AVCCでは、RaspberryPiでPythonを学ぶ「IoT道場」の教材を令和4年度に開発しました。多くの方に入門いただき、自らの課題を考え解決することができるデジタル人材の育成を推進しています。令和5年度は以下の2つのプログラミング講座を公開し、7月にはChatGPTを用いた「AIサポート」機能を追加し、サポートの強化を行いました。

### ①Python基礎講座(無償プログラム)

学習者のPC (Windows or Mac) 上でThonnyというツールを使いPythonを習得します。パソコンとインターネット環境があれば学習ができますので、特別な機材の準備は不要です。Pythonは、様々な分野や目的に応じて、過去にプログラムされたひな形のライブラリーが充実しており、その範囲は科学技術計算やAIまで幅広い分野に及びます。膨大なライブラリーを誰もが自由に無料で利用でき、積み木を組み合わせるようにして自分のプログラムを作ることが可能です。

令和5年度は、新たに75名の方が受講され、7名の方が修了されました。ただし、受講状況を分析すると、Lesson0からLesson2までの最初の部分で受講人数が減少する傾向が見受けられました。

期待通りのプログラムではなかったなど理由も考えられますが、このプログラムは、学習者の自学自習を前提としております。悩んだ時、困った時にチャットで問合わせに応えるTAV (Teaching Asistant Volunteer) の学習サポートと、「AIサポート」機能を提供していますが、更にテキストだけでは理解が難しい操作については、「説明動画」を副教材として提供し、学習者の学習意欲を後押ししています。

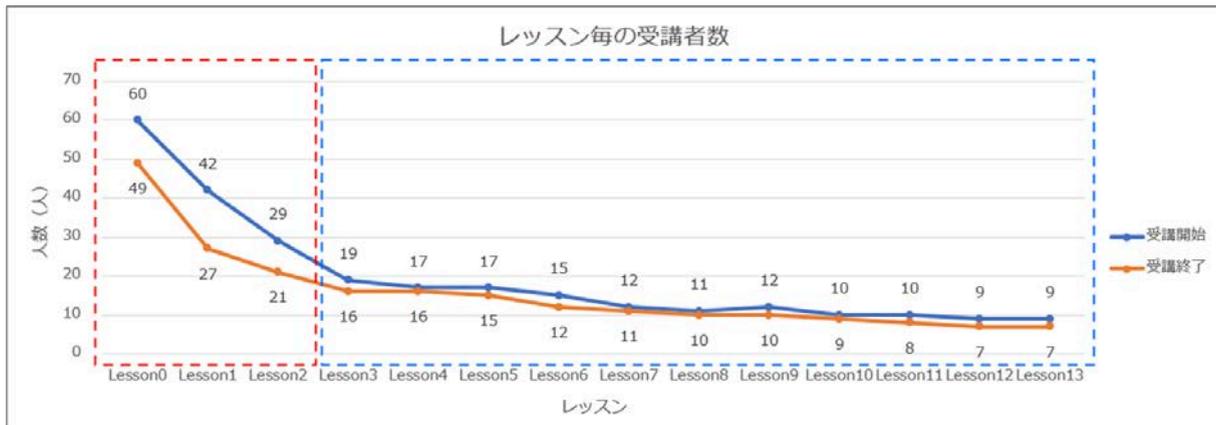


図-4 Python基礎講座のlesson毎の受講者数推移

## ②Python IoT 応用講座 (有償プログラム)

Pythonのプログラミング基礎を理解できたら、「拡張基板」と「RaspberryPi400」を使い、実習しながらIoTを学びます。「RaspberryPi」がIoTに向いているのは、外部装置との信号のやりとり、電流を送ったりする40ピンI/O端子が付いていることです。この40ピンI/O端子に接続して幾つかのIoT実習を行うことができる「拡張基板」を独自に開発しました。

「拡張基板」と「RaspberryPi400」を接続するだけでIoT実習とプログラム学習ができます。

この講座についても、悩んだ時、困った時にチャットで問い合わせに答えるTAV

(Teaching Asistant Volunteer) による学習サポートを提供しています。また、拡張基板の動作を映像で確認できる「確認動画」を全てのLessonに用意しました。

具体的な実習内容は以下のとおりです。

- 青、緑、赤のLEDを点けたり、消したり、交互に点滅させたり、フルカラーのLEDを指定した色に点灯するプログラムの作成
- 人が近づいたらLEDが光り知らせる人感センサーシステムの作成
- 音波センサーによる距離計プログラムの作成
- 温度湿度計や赤外線を使ったプログラムの作成
- スピーカー・アンプが付いているので音楽を演奏するプログラムの作成

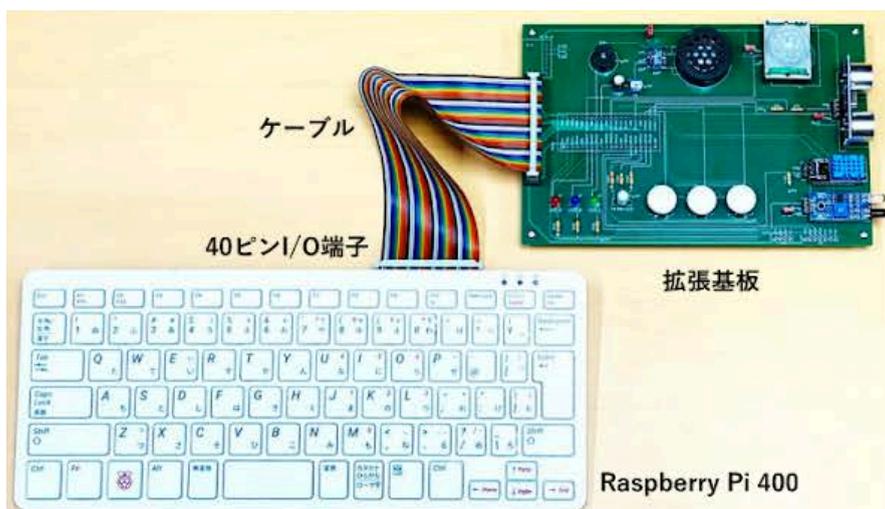


図-5 拡張基板とRaspberryPi400

教材開発には、宇治市の株式会社テラユナイテッド様（MOU締結団体）にご協力をいただいています。なお、本講座は、オンラインで個別サポートを行うlearning Support System（LSS）で提供します。

## II Valuableコミュニケーションの社会実装

### (1) 「しごと力向上ライブラリ」の開発・提供

KK<sup>2</sup>では「社会で活躍するために必要な力」を「しごと力」とよんでいます。知識、スキルだけでなく、Feel（人間関係力）、Think（問題解決力）、Act（行動力）の行動特性（コンピテンシー）と変化にしなやかに対応する力（レジリエンス）を含む総合的な力です。KK<sup>2</sup>では[デジタル社会において必要な「しごと力」を学べるプログラム](#)を開発し提供しています。

令和5年度は、誰も置き去りにしないコミュニケーションのバリアフリーの実現を目指し、プログラムの企画・開発、利用拡大を進めてまいりました。ANAグループの特例子会社（航空業界初）であるANAウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社 Universal Standard Consulting 事業部様に協力をいただき、[「障がい当事者が語る！コミュニケーションのバリアフリー」](#) [（全17単元・理解度確認テスト付き）](#)を公開しました。誰もが障がいについて理解し、障がい者の方とのコミュニケーションについて学ぶことを目的としたプログラムです。

バリアフリーとユニバーサルの違い、障がい者を取り巻く環境、肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい、精神障がい、発達障がい、知的障がい、加齢に伴う障がいの基礎知識や困りごと、コミュニケーションを取る上での大切なポイント等について、障がい当事者の方が講師となって解説しています。各単元には理解度確認テストがついており、企業・組織での意識改革研修にご活用いただける内容となっています。令和6年4月より障害者差別解消法改正法が施行され、合理的配慮の義務化されることを受けて、全従業員への意識改革研修としての利用についてのお問い合わせもありました。株式会社静岡銀行様、株式会社山梨中央銀行様、株式会社名古屋銀行様にご活用いただきました。



講座名	オンデマンドレビュー (5段階評価)	
障がい当事者が語る！コミュニケーションのバリアフリー	5.0	
単元名	公開日	再生回数
1.基本①バリアはどこに	2023/6/1(木)	362
2.基本②法令や社会的背景から学ぶ	2023/6/1(木)	169
3.障がいを知る:肢体不自由・車椅子利用者①(基礎)	2023/6/29(木)	153
4.障がいを知る:肢体不自由・車椅子使用者②(車椅子の移動介助)	2023/7/6(木)	104
5.障がいを知る:肢体不自由・車椅子使用者③コミュニケーション	2023/7/13(木)	88
6.障がいを知る:視覚障がい①基礎	2023/7/27(木)	109
7.障がいを知る:視覚障がい②コミュニケーション	2023/8/3(木)	77
8.障がいを知る:視覚障がい③Webアクセシビリティ	2023/8/10(木)	87
9.障がいを知る:聴覚障がい・言語障がい①基礎	2023/8/24(木)	86
10.障がいを知る:聴覚障がい・言語障がい②コミュニケーション:手話	2023/8/31(木)	60
11.障がいを知る:聴覚障がい・言語障がい③コミュニケーション:ツール	2023/9/7(木)	53
12.障がいを知る:内部障がい	2023/9/21(木)	44
13.障がいを知る:精神障がい	2023/10/12(木)	89
14.障がいを知る:発達障がい	2023/10/19(木)	95
15.障がいを知る:知的障がい	2023/10/26(木)	81
16.障がいを知る:加齢に伴う障がい・その他配慮が必要な方	2023/11/30(木)	58
17.ケーススタディ(こんな時は?)/緊急時・災害時の対応	2023/12/7(木)	67

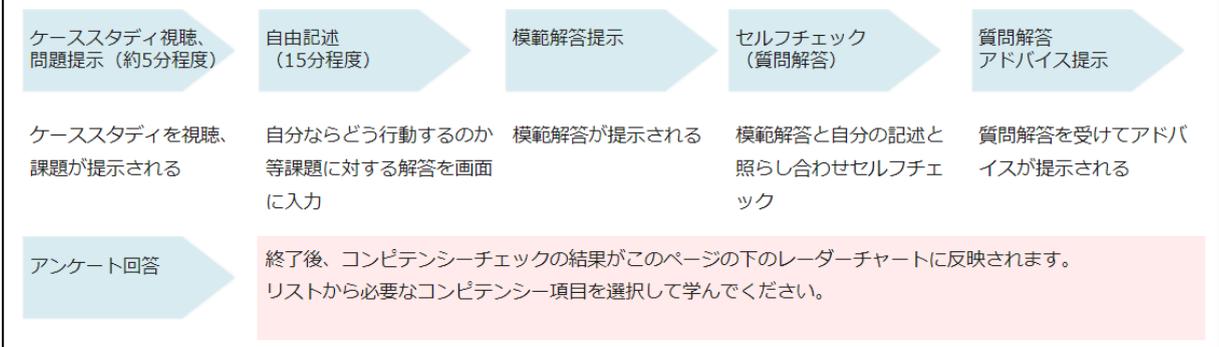
## (2) コンピテンシー・チェック (Webチェックプログラム)

社会に貢献している人、社会で活躍する人、優れた仕事をする人が備える「しごと力」の中核となるコンピテンシー「Feel（人間関係力）、Think（問題解決力）、Act（行動力）」について理解し、自分自身の学習課題を知るWebチェックプログラムです。Web会員登録を行えばどなたでも無料で利用できます。

KK<sup>2</sup>「コンピテンシー」9項目に関するケーススタディ（ドラマ）を視聴し、自分ならどう考え 行動するのかをWebのフォームに入力します。入力内容と模範回答をセルフチェックし、自分に足りないコンピテンシーについて気づきを促す学習プログラムです。

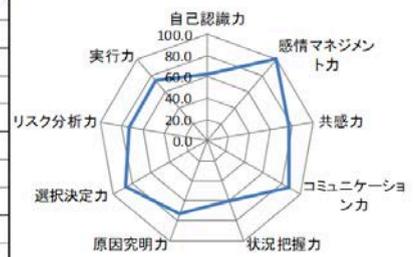


■チェックシステムの流れ



令和5年度は、延べ38名の方に利用いただきました。

講座名	ケーススタディ	理解度 平均スコア	受講者数	
人間関係力 (Feel)	自己認識力	「就職活動」	62.5	12名
	感情マネジメント力	「年下の上司」	100.0	3名
	共感力	「父親の転勤」	77.0	3名
	コミュニケーション力	「バイトのシフト交替」	87.5	4名
問題解決力 (think)	状況把握力	「町のゴミ問題」	60.0	4名
	原因究明力	「パソコン故障の原因」	73.3	3名
	選択決定力	「妹の進路決定」	86.7	3名
	リスク分析力	「犬小屋づくり」	73.3	3名
行動力 (Act)	実行力	「アイスホッケーのスターになるために」	73.3	3名
合計			38名	



(3) 自治体DX推進支援

-1 自治体デジタル化 (DX)推進

社会全体のデジタル化の推進には、住民に身近な行政サービスを提供する自治体においても各種手続等のオンライン化をはじめ、住民サービスのデジタル化が急務となっています。デジタル化に当たっては、サービスのフロント部分だけでなく、バックオフィスも含め、エンドツーエンドでIT化・BPRを徹底し、住民の利便性向上と行政の効率化を図る必要があります。

近年多発する地震を含めた災害に対する住民の安全・安心を確保するため、迅速な住民への情報伝達システムの整備やデジタルツールやSNSの活用等、防災行政に対するデジタル化も加速する必要があります。

また、まだ復旧のさなかにある令和6年元日に発生した能登半島地震においては、AVCCが自治体防災システムの主体として捉えていた防災行政無線システムが、蓄電池への電力供給不足で使用不能に陥り住民への情報提供が滞ってしまう事態が発生しました。

## 防災行政無線の放送が行えない（電力不足）



屋外拡声子局の  
バッテリー駆動は  
48H~72H



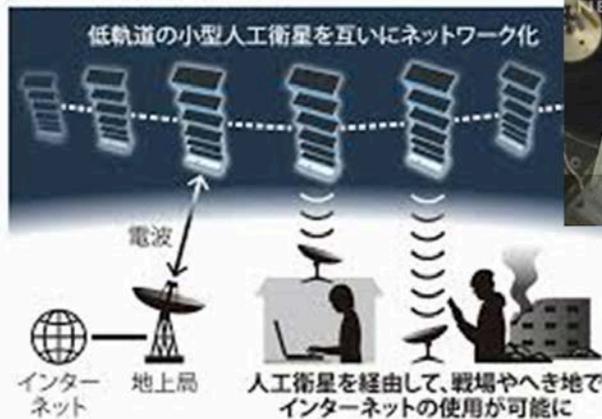
石川 珠洲市長 防災無線のスピーカー使えず  
電力の支援求める 2024/01/06 引用:NHK NEWS WEB

その一方で、KDDIがイーロン・マスク率いるスターリンク社製の衛星携帯電話（350台）を配布し、その有効性はその後の国会でも報告されており、小池東京都知事が都下全市区町村にスターリンク社の衛星携帯電話を配布するといったことにも現れています。

まさに既存技術の破壊の中から新たな技術の到来を感じさせられる出来事で、chatGPTを中心としたAIの急激な進化、普及とともに私たちを取り巻く社会は「創造的破壊」の時代を迎えたとも言えます。

## 衛星通信網（スターリンク）が活躍

### スターリンクの仕組み



地球の近くに  
**5000基**の衛星を  
打上げ

AVCCでは、約20年に渡り防災分野での調査設計に携わってきましたが、能登半島地震からの教訓、急激なデジタル化社会の進展に合わせ、デジタル社会に適合した新たな自治体防災に対するアプローチを行う必要出てきています。衛星通信網やAI技術の積極的な取込み

による自治体のデジタル化・DX推進に向けた支援を調査・コンサル・設計と言った側面から支援するとともに、一方では誰も取り残さないデジタル社会の実現ため、誰もがその恩恵を享受できるよう、いわゆる情報弱者と言われる方々への情報伝達支援やコミュニケーション方法についても支援となるシステムの設計等を行っています。

## -2 地域情報化計画策定支援

地域情報化計画・DX推進計画は、自治体の総合計画を情報面から実現のために支援する計画です。地方を中心に自治体職員の減少や削減が進む中、AIやSNSを活用した窓口業務の効率化や住民サービスの向上、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を活用した単純入力業務の自動化等、新たな情報化技術を取り入れている自治体も増えてきています。

そのような社会情勢に置いて、今後の情報化指針等を、国や都道府県の動向等を交えながら地域の情報化推進の在り方を住民に示すものとして策定されます。



図-6 「地域情報化計画」の位置づけ

AVCCでは、例年、地域情報化計画策定支援に係わって来ました。

令和5年度は茨城県常総市で地域情報化計画兼DX推進計画を策定しました。国や都道府県の情報化政策の分析の他、該当自治体の全部門に対するアンケートやヒアリングを実施しています。継続して計画策定に係ることで、自治体が抱える課題や課題解消に向けた対応について、現場レベルでの自治体情報化に向けたノウハウの蓄積をAVCC内に行うことができます。

#### **(4) 独立行政法人国際協力機構(JICA)**

令和6年度も引き続き、JICA内に業務従事者を配置し、TV会議システム、Web会議システムの運用業務や付随する業務を行いました。19年に渡り、主にTV会議を用いる形でJICA様の運用支援を行って参りましたが、残念ながら本業務はJICA様の中で事業自体が終了する事となり、令和6年5月を持ちまして完了する事となりました。コロナ過以降で働き方をはじめ、会議等のコミュニケーションの形にも変化が訪れ、誰もがPCやスマートフォンを用いて手軽にZoom等のWeb会議を行えるようになりましたが、その片方ではWeb会議は誰でも行えるなら、会議の運用業務についても自分達で出来るのではと、会議に関わる運用業務について存在意義が問われる形となりました。

AVCCでは Advanced Valuable Communication の社会実装を目指し、高品質な会議を行っていただけるよう運用支援を行って参りましたが、社会の認識では会議自体の品質については評価が軽視されています。この認識を如何にして変えていくかが、Advanced Valuable Communication 社会実装の為の、今後の大きな課題です。

#### **(5) 各種運営支援業務（映像情報システムの構築、運用、保守管理業務）**

公共施設、学校、企業等に設置されている映像情報システムを対象に、システムの保守管理業務や運用業務の支援を行います。また、コロナ禍により加速する、授業・講演のオンライン化対応の為のシステムリニューアルの提案や、双方向に映像音声通話を想定したオンライン対応のValuableな会議室等の設計・ご提案といった、Society5.0に則した新たな映像情報システムの構築を実施しました。デジタル化のシステムは日進月歩で進化し続けると共に、カメラやモニターを据え付けるといったアナログな据え付け工事も増加傾向にあります。次年度以降もAVCCでは引き続き、お客様のご意向に添える、Valuableな設計・提案を行ってまいります。

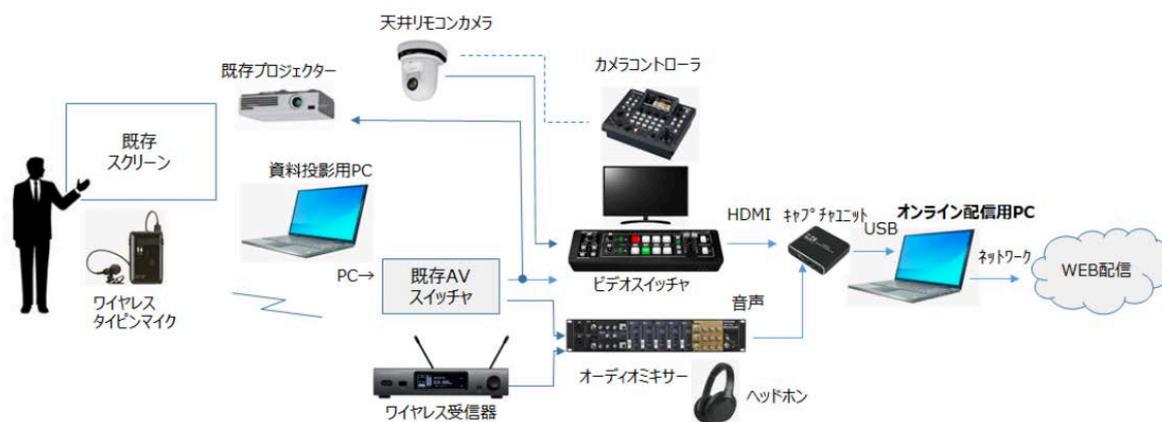


図-8 オンライン配信可能な映像情報システムイメージ

- 1 生命保険会社 東京本社ビル
- 2 生命保険会社 研修所
- 3 千葉県松戸市教育委員会 様
- 4 (公財) 松戸市文化振興財団 様
- 5 学校法人昭和女子大学 様
- 6 学校法人松本歯科大学 様
- 7 学校法人愛知大学 東京霞が関オフィス 様
- 8 日本アムウェイ合同会社 様
- 9 東京美装興業 様

### Ⅲ KK<sup>2</sup>ブレンデッドラーニングによる人材育成支援

#### (1) 組織内でのデジタル寺子屋

私たちはAVCCの職員としてデジタル社会で求められるしごと力を、図-9のようにA~Fの6項目にまとめ、各項目を細分化したコンピテンシー・インベントリーを作成し、各コンピテンシー毎に質問・チェックするDSC(デジタルしごと力チェック)を令和4年11月に公開しています。

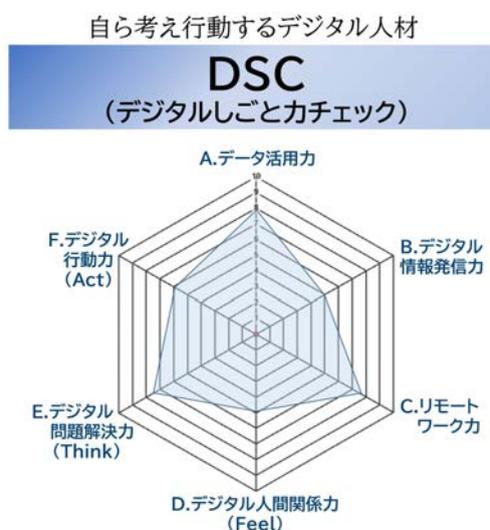


図-9 DSC(デジタルしごと力チェック)

DSCは単に各人がセルフチェックをするだけでなく、そのスコアに応じて推奨する学習教材を提示する仕組みとなっており、チェック後に各人が自学自習できるものとなっています。推奨教材を各コミュニティが用意することはとても大変なため、KK<sup>2</sup>の既存教材から選定することと、WEBサイトの中で教材として相応しいサイトを[good site]として選定しています。令和5年度は10月におすすめコンテンツの更新を実施しました。

令和5年度は、KK<sup>2</sup>Web会員を含む3つの組織でトータル100名の方が受講され、おすすめサイトの視聴についても870回を超えました。



## (2) KK<sup>2</sup> DPPによるブレンデッドラーニング

KK<sup>2</sup>サイトには、組織内でのブレンデッドラーニングを実践することができる[KK<sup>2</sup>デジタルプレゼンテーションプラットフォーム](#)（以下、DPP）を引き続き提供しています。DPPは、「リアル研修／集合学習」「ライブ学習」「オンデマンド学習」の三つの学習形態で、アナライザ（Response Analyzer）を活かした「Two Way Communicationの実践」と「Digital Transformationの支援」を応援しています。

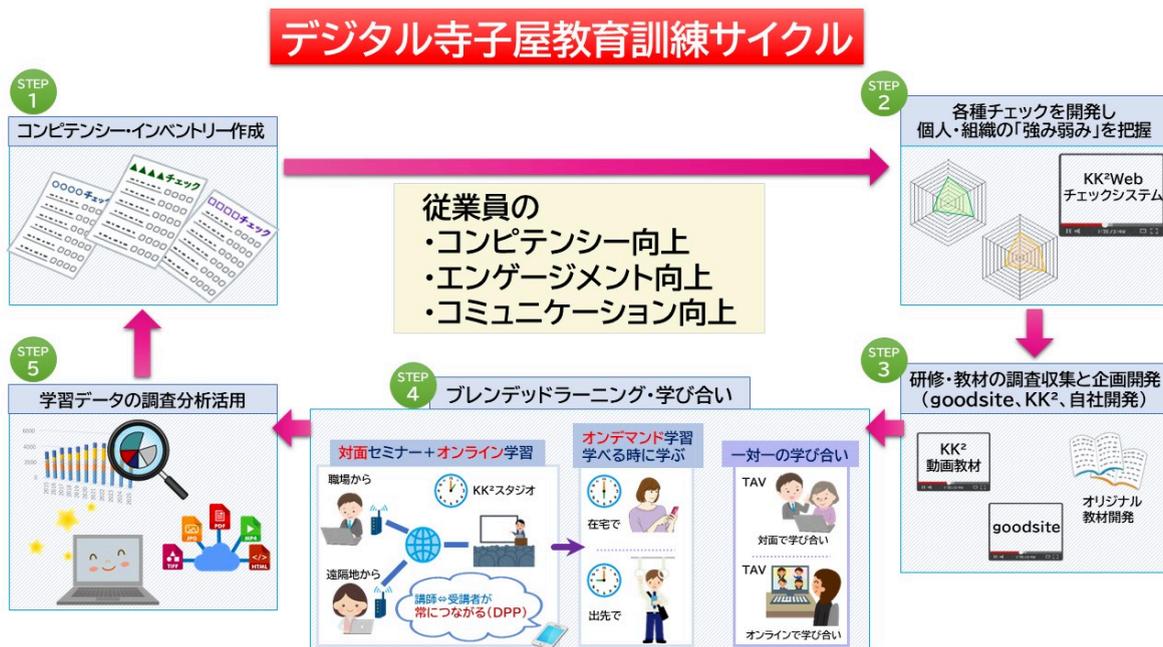


図-10 デジタル寺子屋教育訓練サイクル

## -1 DPPによるDigital Transformationの支援

「試験」「コメントシート」「質疑」等、講師と学習者（リアル+バーチャル）間で情報をすべて紙ベースからオンライン化し、データとして管理します。集計・添削・質問への回答を効率的に行うことができ、文字が見やすく、講師の「負荷軽減」「働き方改革」を支援します。

令和5年度は、DPP画面からZoom等のオンラインミーティングツールを直接起動できる機能を追加し、ブレンデッドラーニングをより効率的に実現できるようになりました。

以下にDPPの概念図を示します。

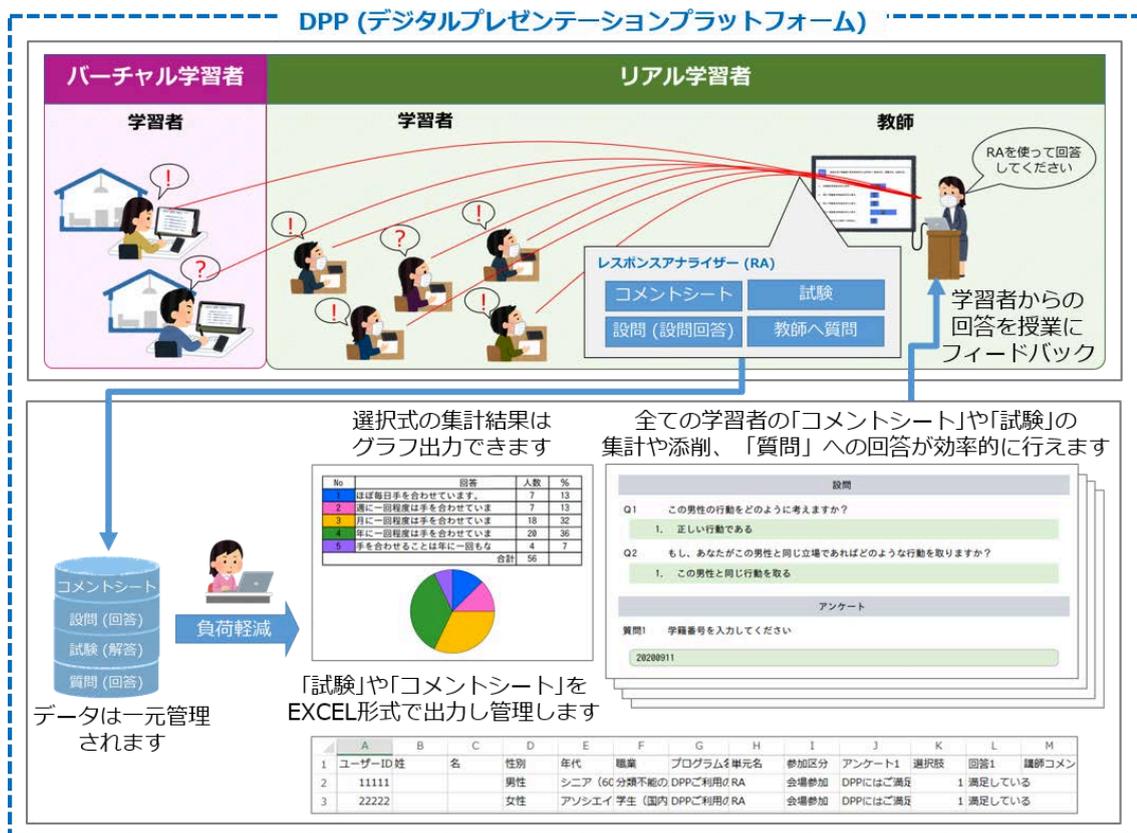


図-11 KK<sup>2</sup>デジタルプレゼンテーションプラットフォーム (DPP) 概念図

※KK<sup>2</sup>デジタルプレゼンテーションプラットフォーム (DPP) は、協力会社である株式会社メディアリンクにより、特許番号：第6507328号、第6582262号、第7231146号を取得しています。

### ①多岐選択式セルフチェックシステムの提供

様々なリテラシーを測るため多数の多岐選択質問に回答することで、学習者自身の理解度

とグループ内の「順位」等を知ることができます。また、同時に提示される「アドバイス」と「おすすめコンテンツ」は、学習者を動機付けし「自学自習」をサポートします。

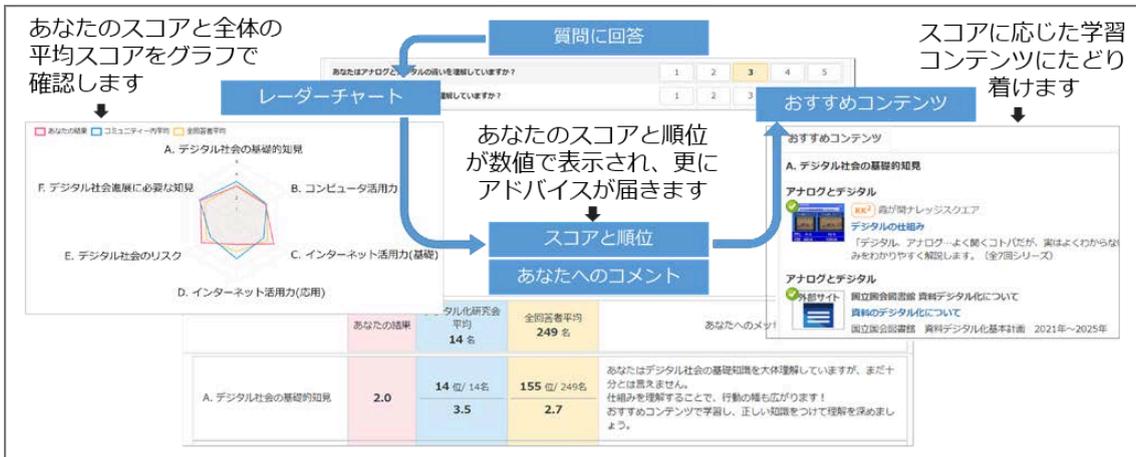
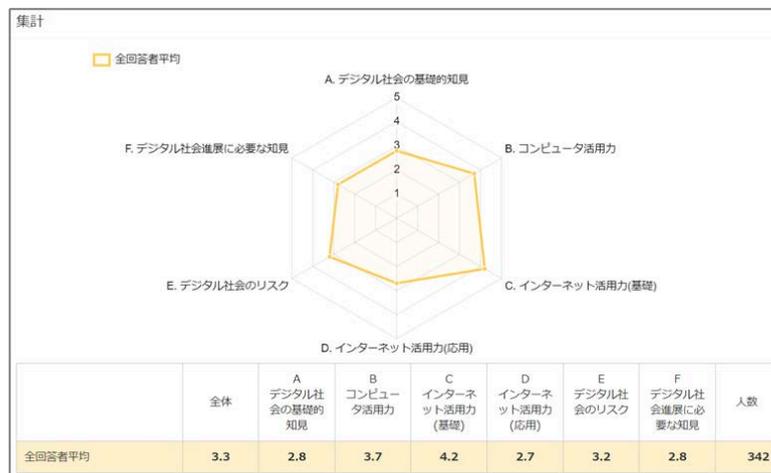


図-12 多岐選択式セルフチェックシステム概念図

現在、「[デジタル活用カチェック \(DKC\)](#)」「[デジタルしごとカチェック \(DSC\)](#)」として実装しており、令和5年度は、「デジタル活用カチェック (DKC)」はKK<sup>2</sup>Web会員を含む5つの組織で計343名、「デジタルしごとカチェック (DSC)」はKK<sup>2</sup>Web会員を含む3つの組織で100名の方が利用されています。



## ② デジタル教材個別学習システムの提供

学習者は、PDFなどデータ化されたテキスト教材や映像・音声などの動画教材により、自学自習と実習を進めます。学習ページから何時でも、補助動画を視聴したり、疑問点等を質

問することができ、TAV(Teaching Assistant Volunteer) や生成AIがアドバイザーとして問い合わせに回答します。また、問い合わせの内容と回答は「FAQ」として蓄積されます。



図-13 テキストベース個別学習システム概念図

デジタル教材個別学習システムは、汎用性のある「Learning support system (LSS)」として開発を進め、令和5年に公開した「Python基礎講座」と「Python IoT 応用講座」の受講者支援機能として組み込まれています。

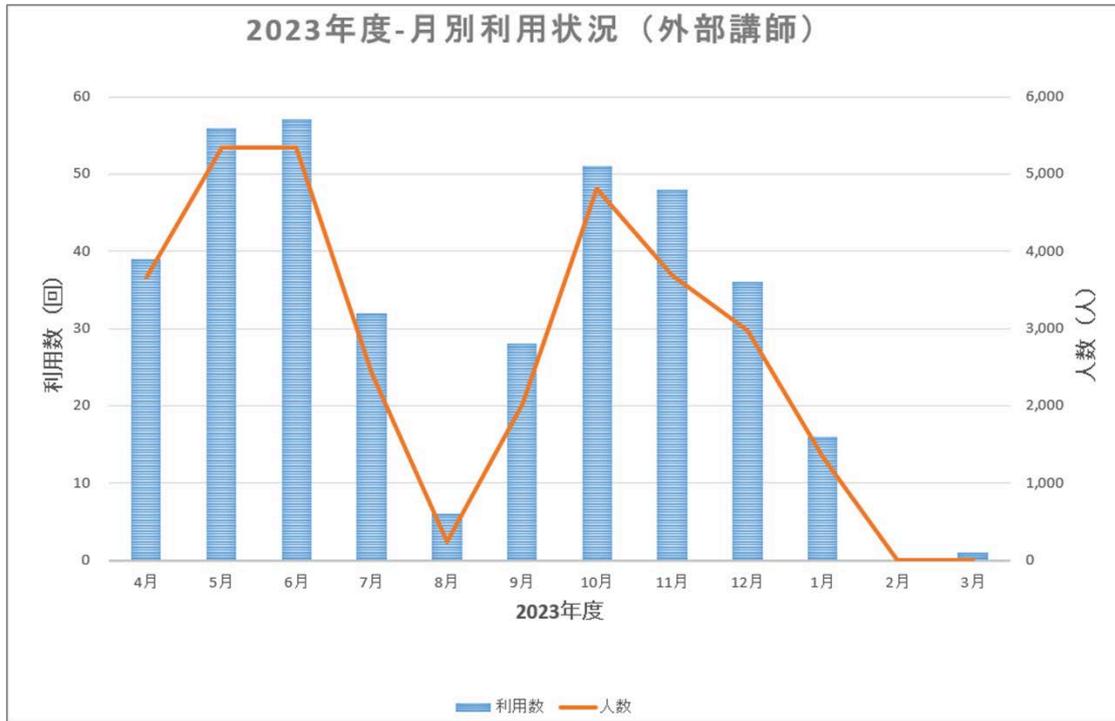
### (3) 「KK<sup>2</sup>協賛メンバーページ」の提供

KK<sup>2</sup>協賛メンバー様向けに、AVCCとの共催プログラムの企画・開発や、オンラインセミナー開催に最適な設備をメンバー価格で提供、オンラインコンシェルジュによるサポート、組織専用の学びのページ「協賛メンバーページ」の作成や、KK<sup>2</sup>プログラムへの従業員の参加費割引、KK<sup>2</sup>LMSの利用など人材育成に活用いただけるサービスを引き続き提供しています。

### (4) 教育機関への働きかけ

KK<sup>2</sup>デジタルプレゼンテーションプラットフォーム (DPP) は、教育機関に対してもコロナ禍を境にして、複数の大学でオンライン授業、オンラインテストなどご利用頂いており、講師の負担軽減や働き方改革に成果が出てきています。

令和5年度も引き続き、3つの大学と1つの中学校において計370回の授業、延べ31,827の学生/生徒がDPPを使った授業に参加しました。前年度との比較では、授業数、受講者数ともに115%の増加となっています。



## IV 誰も置き去りにしないデジタル社会へ

### (1) コミュニケーション環境整備支援（インフラ）

既存通信用設備の老朽化や新たなデジタル通信技術の登場により、現代の社会インフラと言える各種情報通信網のデジタル化やデジタル化に伴う大容量、高速通信を活かした高度利用化が進んでいます。

AVCCでは、従来より行っている自治体が運用する防災行政無線網のデジタル化支援の他、既設衛星通信網や内線通信網の最新通信技術を用いた更新事業、防災・災害時の活用を見据えた複数拠点のカメラ映像を集約するための自営無線通信網の整備支援を行いました。

また、デジタル弱者に対するコミュニケーションについても、今後更なる増加が懸念される高齢者の独居者を念頭に災害時の情報連携だけではなく、日常生活における見守り手段についても継続して検討を行いました。

#### -1 各種無線インフラ設計

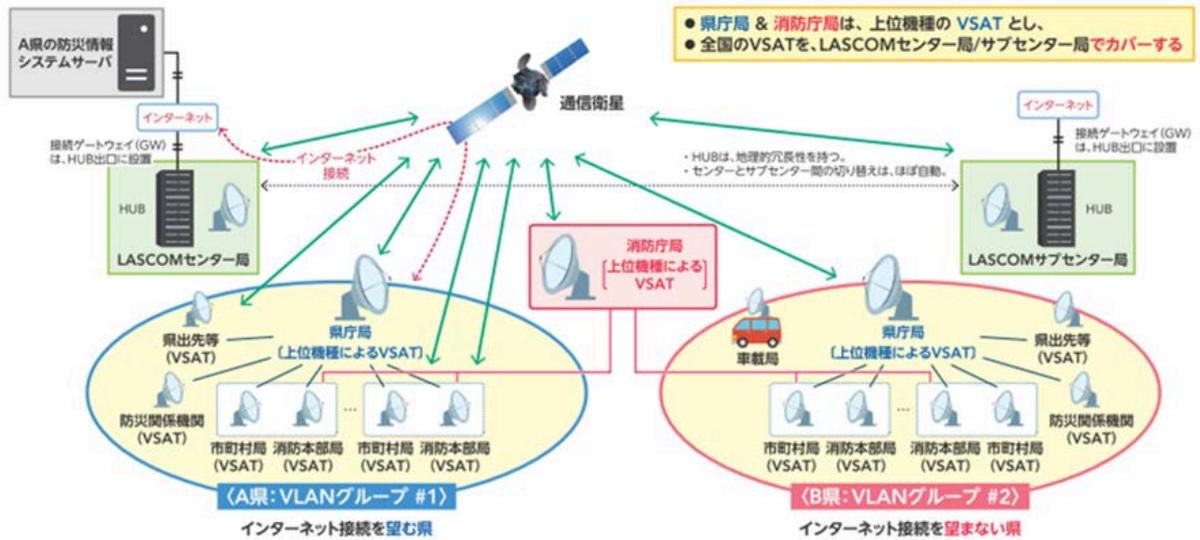
##### ①自治体衛星通信網整備支援

AVCCでは、平成29(2017)年に（一財）自治体衛星通信機構（略称：ラスコム）の業務委託で衛星通信を使った多チャンネル・高映像（SD画質からHD画質へ更新）の伝送が行える映像伝送方式（第三世代システム）の設計を行いました。

この映像伝送方式は、高知県が令和3年度に導入したことを皮切りに、全国都道府県の防災システムに組み込まれることが決定しています。

AVCCでは、令和5年度に山梨県防災システムの衛星による映像伝送方式（第三世代システム）の設計業務を行いました。本システムが構築・運用されれば、地上系通信システムが途絶されるような状況下においても、今まで以上に詳細な現場からの映像伝送が可能となるため、災害発生・活動時における情報収集・分析等の向上が期待できます。

■ 第3世代システム(スター型VSATシステム)イメージ



(一財) 自治体衛星通信機構ホームページより

②LTE (sXGP) 内線通信網整備支援

東京都下水道局において砂町水再生センター(約500ヘクタール)のプライベートPHS内線網をPHS技術の終息(令和5年 PHSの公衆サービスが終了)と既設設備の老朽化に伴い、プライベートLTE (sXGP) 網へ更新するための調査・設計を行いました。

この設計では、プライベートLTE網への切り替えに伴うアンテナ局設置場所検討において、事施設の形状や壁の材質等を考慮した3D無線シミュレーションを行い、必要な箇所に必要なだけのアンテナを設置できる設計を行いました。

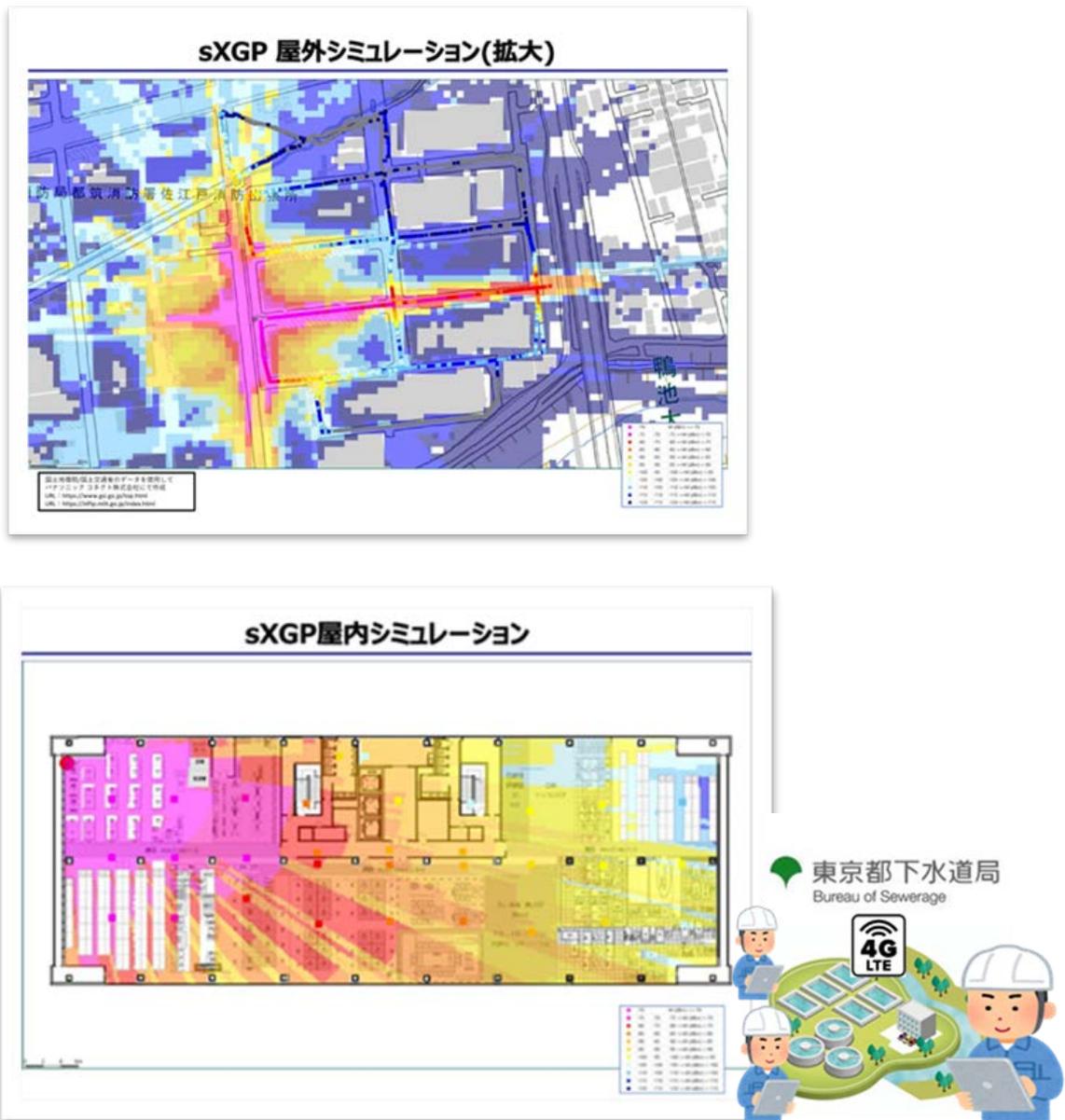


図-14 LTE (sXGP) 網シミュレーション例

また、この更新により、今までは音声やFAXを利用していた業務連携が、音声の他、地図情報を含めた業務データを直接やりとりできるようになります。

### ③ 広域自営無線通信網整備支援

江戸川区において、荒川の氾濫等による大規模水害に備え、避難所となる区の施設や小中学校等を自営無線網で接続する整備事業の調査・設計支援を行いました。

この整備支援では、水害による停電も想定し、太陽光パネルによる発電システムを各施設

の屋上に設置し、高所カメラの映像を本庁舎から閲覧することを可能としています。また、各施設にWEB会備システムを設置し、災害時に会議や連絡等も行えるようにしています。

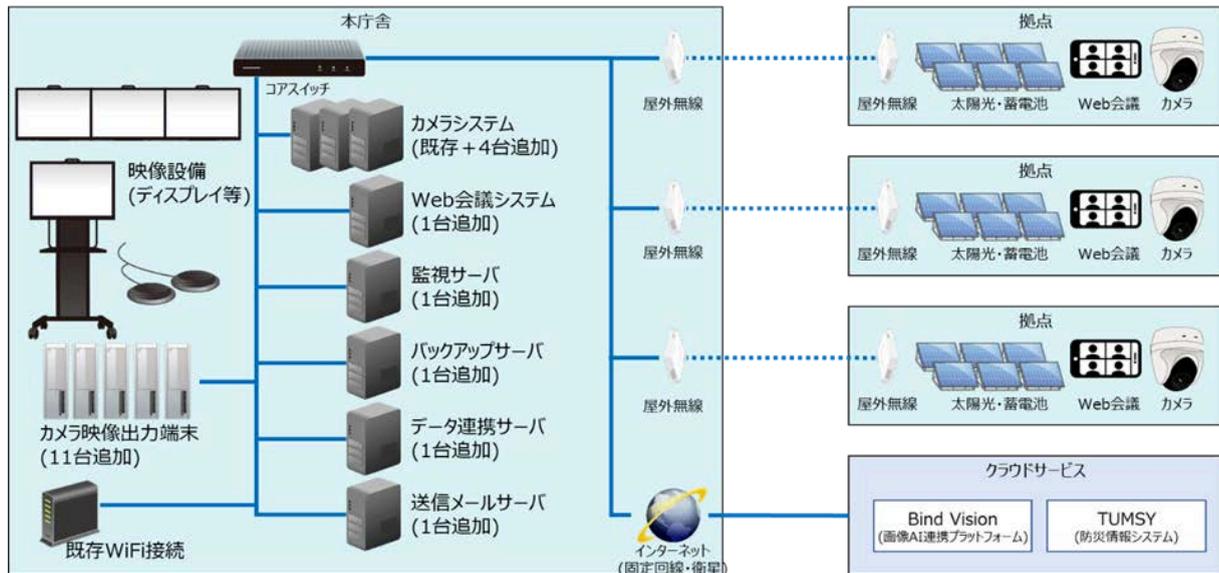


図-15 江戸川区本庁舎と各拠点間構成イメージ

#### ④ 防災分野におけるデジタル化推進支援

##### a) 防災行政無線のデジタル化更新支援

防災行政無線には住民に音声で情報を伝達する「同報系防災行政無線」と、災害時等に職員間等で連絡を取り合う「移動系防災行政無線」があります。

AVCCでは、これら各防災行政無線のアナログシステムからデジタルシステムへの移行に伴う調査・設計と共に、自治体が自営で運用する無線網の他、民間が提供する無線網サービスやシステムも用途やコスト等から比較を行い、最適な整備環境の検討も行っています。

また、各設計後には、設計に基づいた施工監理業務を行っています。

##### ア) 同報系防災行政無線

北海道鹿追町、静岡県三島市（追加設計）、宮崎県美郷町、鹿児島県いちき串木野市で防災行政無線のデジタル化に向けた実施設計を行いました。

また、東京都府中市、東京都八丈町、長野県阿南町、山口県周防大島町、福岡県みやこ町、長崎県波佐見町、熊本県上天草市、鹿児島県瀬戸内町、鹿児島県龍郷町で施工監理

業務を行いました。

●市町村デジタル同報無線システムの活用イメージ

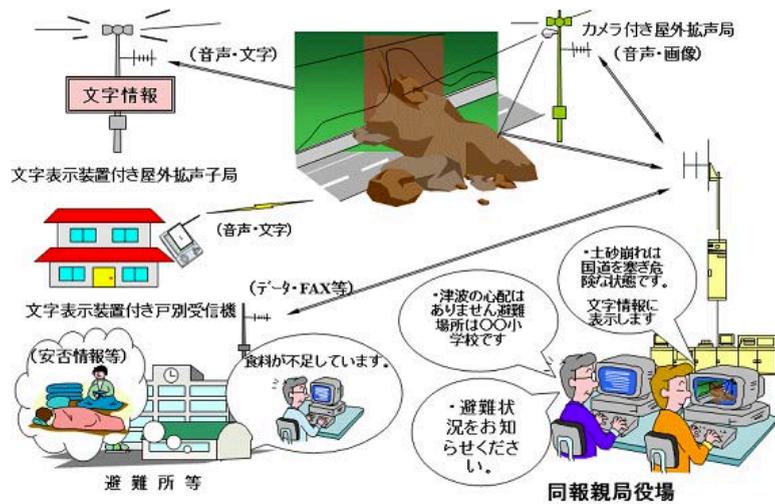


図-16 総務省ホームページより

イ) 移動系防災行政無線

移動系システムでは、自営による運用コスト等から民間サービスを利用する自治体が多く見受けられます。

練馬区では、(一財)移動無線センターがサービス提供を行っているMCAサービスを利用してきましたが、端末の老朽化と令和11年にMCAサービスが終了することを受け、サービスエリア・導入コスト・運用コスト・端末の操作性等から次期移動系システムとして区に最適な比較検討を行いました。

b) 総合防災システム整備支援

災害時には災害対策本部を中心にデジタルシステムやツール、映像・音響システムを駆使し、様々な情報を収集、関係各所での情報共有や連携、そして住民への速やかな情報配信が行われます。特に一刻を争う状況下では、情報を取り扱う組織や団体だけでなく、そこで運用する各システムを超えたシームレスな情報連携が必要になります。

AVCCでは、足立区の次期災害対策本部の更新に伴う基本設計を行いました。既設災害対策本部に隣接する大会議室スペースを用途に応じアコーディオンカーテンで拡張できるよ

うにし、増加する防災担当職員の作業スペース確保と情報共有のための大型LEDモニタ等の導入を提案しています。また、前述した江戸川区においても約150か所ある避難所との連携するための会議システムや防災・災害時用力カメラの映像を効果的に表示するシステムの設計を行っています。

また、兵庫県姫路市においては、昨年度設計を行った防災センターの施工監理を実施しています。



図-17 足立区災害対策本部イメージ図（右側：拡張可能な会議スペース）

### c) 高機能消防指令台システム更新支援

高機能消防指令台システムは、119番通報の受付、災害通報の覚知、出動車両の自動隊編成、出動指令、現場作戦支援を統括する指令管制操作の主装置部になります。全国消防本部（726本部）では老朽化等による故障を未然に防ぐため、定期的な指令台システムの更新を行っており、昨年度から高機能消防指令システムへの更新が全国で始まりました。

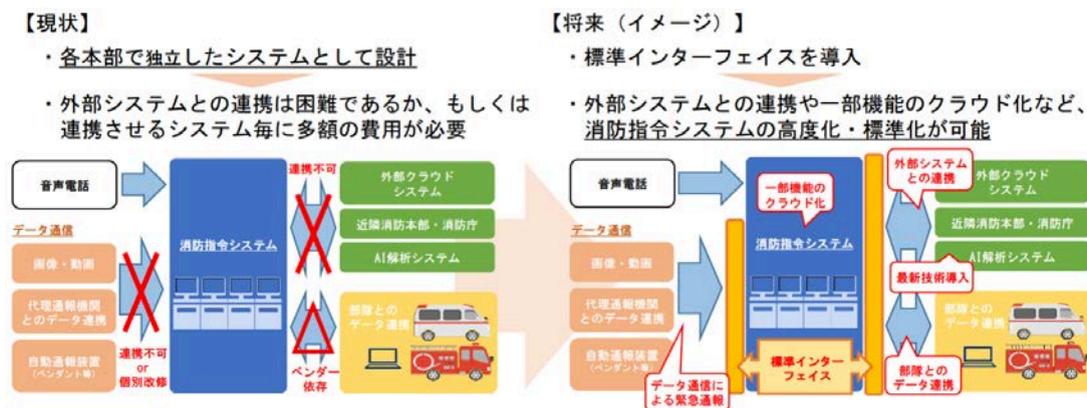


図-18 高機能消防指令システムへの更新イメージ図～総務省消防庁防災情報室 資料より～

AVCCでは令和4年度に島根県浜田市で消防本部の高機能指令台システムの更新設計の実績をつくり、令和5年度には始良市消防本部、富山県東部消防組合消防本部の高機能指令台システム更新の実施設計を受注しました。



図-19 始良市消防本部3階既設通信指令システムフロア

## -2 各種有線インフラ設計

国内の高速ブロードバンドと言われる光ファイバ網の整備率は、令和4年3月末で99.72%となり、ほぼ必要な世帯への引き込み環境は整備出来ています。

とは言え、平成20(2008)年に「2015年までにブロードバンド利用率100%を目指す」(光の道構想)という名目で、全国の自治体が総務省の補助事業で整備した光ファイバ網も更新の時期に来ており、今後は幹線からラストワンマイル引込工事への5Gの活用を含め、デジタルデバイドの解消とコミュニケーションインフラに向けた調査設計業務を継続します。

AVCCでは、令和3年度より北海道千歳市のCATV敷設事業の調査設計支援を継続して行ってきました。千歳市では、全国最大規模の半導体工場を建設する予定があり、工場予定地周辺におけるブロードバンド環境整備や急激な人口増に伴う通信インフラとしてのCATV網整備が急務となっており、今後も調査設計業務を継続して実施する予定です。

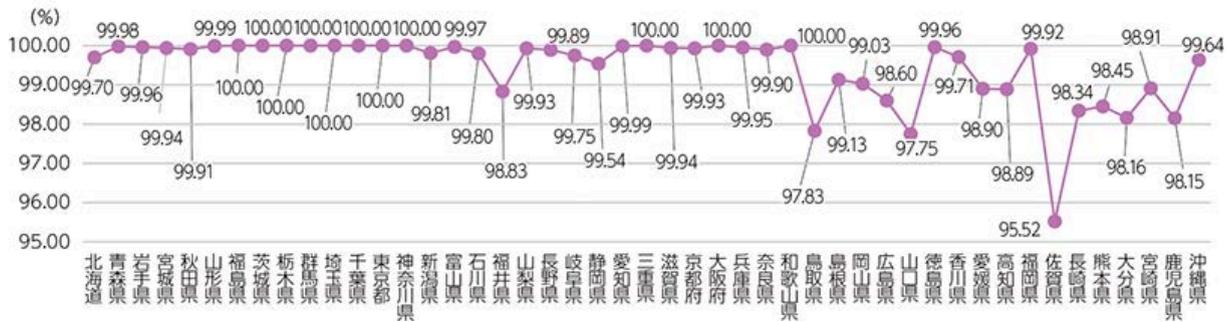
また、特に山間部等体においては、防災行政無線や地デジ放送等の不感エリアが発生するため、継続してCATV網を通信インフラとして活用している自治体も多くあります。デジタルデバイドの解消を含め、継続してCATV網整備支援を実施します。

**全国の光ファイバ整備率**

令和4年3月末 **99.72%**  
(未整備 16万世帯)

※ 住民基本台帳等に基づき、事業者情報等から一定の仮定の下に推計したエリア内の利用可能世帯数を総世帯数で除したものの(小数点第三位以下を四捨五入)。

**都道府県別の光ファイバ整備率**



(出典) 総務省「情報通信白書(令和5年度版)」

図-20「全国の光ファイバ整備率と都道府県別の光ファイバ整備率」

**-3 デジタル社会における情報セキュリティ・個人情報保護**

以前よりAVCCでは地域・社会サービスのデジタル化を支援する事を目的とし、自治体や関連団体・学校向けに個人情報保護、情報セキュリティ監査等の情報セキュリティコンサルティング業務を実施しています。特に住民データや特定個人情報(マイナンバー)等の機密情報の取り扱いには最大限の注意を払う必要があり、団体内で情報セキュリティを維持・管理する仕組みが実態に沿って適切に運用されているか診断を行いました。また、診断だけでなく、情報セキュリティ・個人情報保護に関する研修や職員に対する意識調査等を行い、団体内での意識向上、取組の継続的な支援のための活動を行いました。そのほか、官公庁外郭団体や民間企業に対し、ISMS構築、プライバシーマーク認証取得支援、認証取得後の運用に関する支援を行いました。

診断結果については改善計画を策定・実施していただくことで、自治体の重要資産の取扱いに関する運用実態の向上をもたらしています。令和5年度は、主に下記自治体・団体において支援を行いました。

#### 情報セキュリティに関するコンサルティング実績

- ・東京都荒川区
- ・山梨県笛吹市
- ・山梨県上野原市
- ・山梨県市川三郷町
- ・千葉県県立学校

#### 個人情報・特定個人情報保護に関するコンサルティング実績

- ・東京都江戸川区
- ・東京都足立区
- ・千葉県いすみ市

#### ISMS運用支援実績

- ・青森県国民健康保険団体連合会
- ・長野県国民健康保険団体連合会
- ・山梨県国民健康保険団体連合会
- ・愛媛県国民健康保険団体連合会

## (2) デジタル公民館®プラットフォームの運用

KK<sup>2</sup>Webサイトは「デジタル公民館®」活動のプラットフォームとして、様々な機能が備えられています。1,900本を超える動画（レビュー、テスト、設問回答機能）、プログラムへの申込み機能、学習履歴が表示されるマイページ機能に加え、DPP機能やチェックシステム、施設の仮予約、事務局の管理画面など、いつでもどこでも学べるデジタル公民館®として様々なサービスを総合的に提供しています。一方で、多くのサービスが混在することによって、利用者が求める情報にアクセスできない状況にもなっており、Advanced Valuable Communicationを実現するために、KK<sup>2</sup>Webサイトの見直しについての検討を進めています。

令和5年度は、学びのプラットフォームとして利用者が必要な情報へスムーズにアクセスできることを目指し、具体的な見直しの検討を開始しました。詳細は以下の通りです。

## **-1 KK<sup>2</sup>Webサイト トップページ構成の見直し**

KK<sup>2</sup>Webサイトで提供しているサービスは多岐にわたっており、オンラインや対面で学びたい、セルフチェックしたい、KK<sup>2</sup>レンタルスペースを利用したいなど、KK<sup>2</sup>Webサイトのトップページには多様なニーズを持った方が訪れます。どなたにとっても求める情報へ速やかにアクセスできるWebサイトを目指し構成や項目等について検討しました。

## **-2 動画公開の見直し**

現在公開している1,900本を超えるアーカイブ動画については、利用者がアプローチしやすい検索方法（講師・テーマや内容・制作時期等）について検討をしました。

## **-3 KK<sup>2</sup>Web会員機能の見直し**

KK<sup>2</sup>Web会員が利用できる機能（メールマガジンの登録、動画の視聴・テスト・レビュー、マイページ機能・プログラムの申込み機能、レンタルスペースの仮予約機能など）の見直しを行いました。なお、令和5年10月6日より、デジタル公民館<sup>®</sup>としてより多くの方に学びの場を提供するために動画はWeb会員のログインを行わなくても、どなたでも視聴できるように変更しました。

## **-4 学習サイクルの見直し**

セルフチェック（DKC、DSC等）を行い、まず自分の状況を知り、自分に必要な学びの教材が表示されることで効率的に学べる、デジタル公民館<sup>®</sup>サイクルの実現に向けて検討を行いました。

## **-5 KK<sup>2</sup>サイトのシステム基盤強化**

KK<sup>2</sup>Webサービスの安定提供、セキュリティ対策のため、KK<sup>2</sup>Webサイトのシステム基盤の強化を行っています。令和5年はネットワークセキュリティ(TLS)のバージョンアップ、データベース(AWS RDS)のバージョンアップを実施しました。今後はソフトウェアの基盤となるフレームワークのバージョンアップを実施します。

その他、令和5年10月にはインボイス制度への対応(Webサイトへの適正番号の掲示等)、オンデマンド動画を有料で提供する機能を搭載しました。

### (3) テレボーサイ・サービス（情報格差是正支援）

令和3年度より、災害時、緊急時等における情報格差是正の支援事業として「テレボーサイ・サービス」の開始に向けた準備を進めています。自治体から住民等に向けた各種情報（行政情報、災害・緊急情報等）を、デジタル弱者でも容易に入手できるようにするための専用端末を兼ね備えたサービスです。

本サービスは、災害時等における避難準備や指南指示等の緊急的な情報だけでなく、日常において、今後さらに増加が見込まれる独居老人が社会的に孤立することが無いようにすることを目指しています。具体的には、遠方に在住する家族や民生委員の方々が、本サービスの専用端末を通りして生活行動からの見守りや、コミュニケーションを行える機能を実装することを検討しました。

昨年度は、提供サービスのうち、サーバからの救急時放送や自治体等からのイベントや日常生活に関する情報配信にを行うサービス配信機能及び配信情報に対する確認を返信する機能が概ね完成したため、有効性を図るための実証実験を計画しました。本実証実験については、島根県浜田市様のご協力のもと、令和6年5月24日から6月6日までの約2週間行います。

実証実験は、サービス提供用の専用端末を75歳以上の高齢者がいる3世帯に各1台、市役所に1台設置し行います。期間中は、毎日ごみの取集や市のイベント等の日常に関する情報や、緊急時のテスト放送として市の防災訓練実施の情報を配信する予定です。各情報については、情報の確認を求めるようにし、情報の確認の有無をサーバー側で集計します。また、実証実験の最終日には現地でのヒアリングを行い、市からの情報配信の操作性、配信先であるサービス専用端末からの情報の伝わりやすさ（情報着信時のわかりやすさ、文字の読みやすさや音声の聞きやすさ等）や、使いやすさ（ボタン操作の有効性や、聞き逃し情報の再視聴の仕方、情報確認時の確認方法等）等についてお聞きする予定です。

これら実証実験の結果については、検証を行い、報告書としてまとめ次第、市への報告の他、ホームページ上でも公開を行う予定です。

#### (4) 「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」(東京都千代田区)

AVCCは千代田区と「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」(平成27(2015)年2月)を締結し、発災時には帰宅困難者等を一時的にKK<sup>2</sup>「エキスパート倶楽部」と「スタジオ」に受け入れます。令和5年度は、千代田区の防災無線訓練の実施(月1回)に加え、令和6年に賞味期限を迎える備蓄品の入れ替えを行いました。3月には避難所開設までの机上訓練と千代田区と帰宅困難者受入の可否情報、帰宅困難者受入状況等の情報の無線通信受発信訓練も行いました。

### V 組織のデジタル化支援

#### (1) 法人向けデジタル化支援事業

内閣府がまとめた、「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」によると、令和3年10月時点のテレワーク率は従業員1,000人以上の企業では46.7%に対し、従業員30人~299人の企業で26.7%、2人~29人の企業に至っては20.9%でした。企業規模により、テレワーク率が実に半分以下であるという実情が明確となりました。

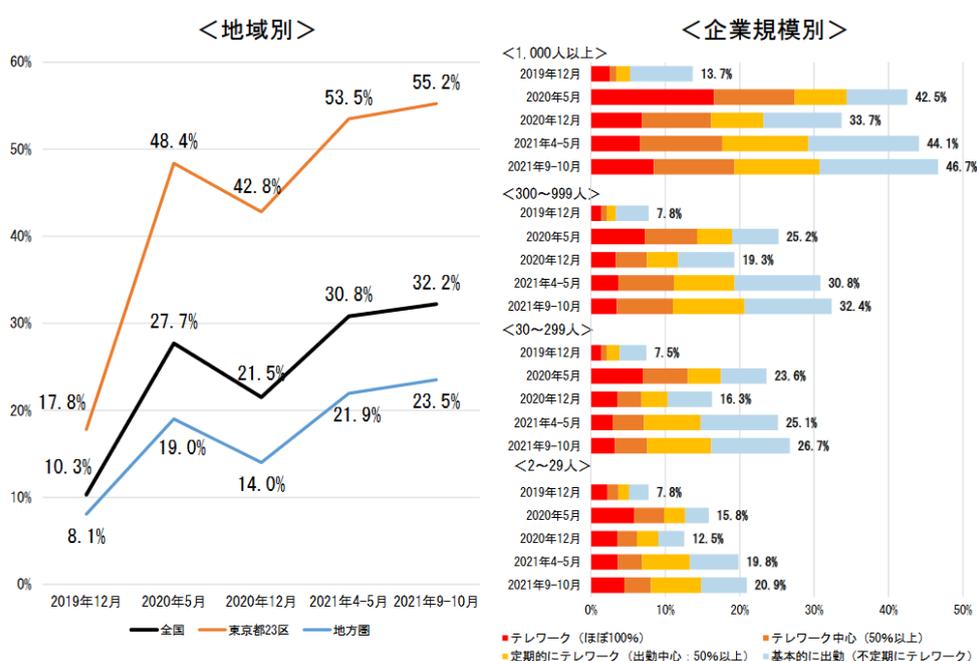


図-21 【働き方】地域別・企業規模別のテレワーク実施率(就業者) 出典:内閣府(2021)

AVCCではデジタル社会の実現に向けて、テレワークを始めとしたデジタル化が遅れている中小零細企業が個別に抱える環境や課題に対し、調査・設計・構築業務・運用保守・問い合わせ対応といった、トータルコンサルティングとしての活動を行いました。

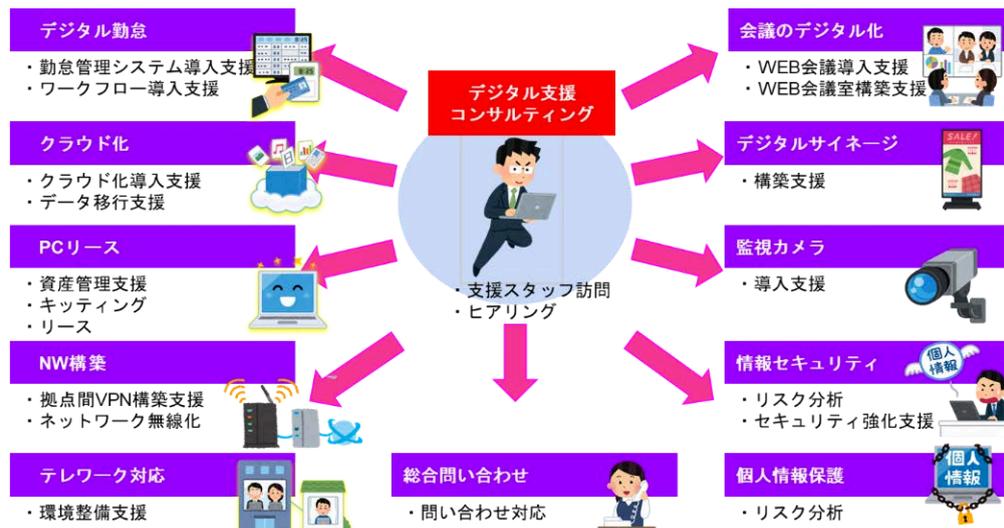


図-22 「デジタル支援コンサルティングイメージ」

## (2) KK<sup>2</sup>オンラインイベント支援事業

KK<sup>2</sup>オンラインイベント支援事業は、KK<sup>2</sup>レンタルスペースの提供だけではなく、ご利用者の目的やニーズに合わせた最適なサービスを総合的に提供することを目的としています。KK<sup>2</sup>オンラインイベントコンシェルジュの支援により Advanced Valuable Communication の実現を目指しています。KK<sup>2</sup>で提供しているレンタルスペース「スタジオ」「ラウンジ」「エキスパート倶楽部」では、いずれもオンラインサービス等を組み合わせて、多様なニーズに対応しご利用いただくことができます。

### スタジオ 【ハイブリッド委員会】

リアル参加委員12人+オンライン参加委員10名+傍聴者100名



全委員による  
オンライン議決  
が可能です  
(DPP\*)

KK<sup>2</sup>スタッフが  
サポートします

傍聴者【LIVE配信】

KK<sup>2</sup>スタジオ:座長+委員11名+事務局数名  
発言者追尾360度カメラ+個別マイク(ON/OFF付)  
Web会議:オンライン参加委員10名  
LIVE配信:傍聴者100名

### ラウンジ 【ハイブリッド会議】

リアル8人+オンライン6人=ハイブリッド会議

ラウンジ+リモート勤務者=ハイブリッド会議

Web会議∞TV会議=ハイブリッド会議



明瞭な音で  
Web会議



### エキスパート倶楽部 【ハイブリッドイベント】

リアル30人+オンライン100人=アットホームなイベント

大画面(98インチ)  
360度カメラ  
大画面(98インチ)に  
参加者が大写し

プレゼンター、進行役、参加者30名  
プレゼンター問いに答え、いつでも質問することができます。

質問「どの生ハムが美味しかったですか？」  
① 36分月野成  
② 24分月野成  
③ 12分月野成  
④ 既美味しい  
⑤ 違いがわからない

プレゼンターと  
参加者をつなぐ  
ハイブリッドイベント

DPP\*

参加者【オンライン】

リアル・オンライン参加者の注文を、csv.pdfで即座に自動集計。

コロナ禍を経て、[Web会議やライブ配信などのオンラインと会場での対面を組合せたハイブリッド開催](#)が急速に浸透し幅広いニーズが増加しています。オンラインイベントの申込み管理から、本番開催時のオンライン運用支援、収録・編集、オンデマンド公開、DVD制作など、総合的なオンラインイベントの支援を行っています。

令和5年度も引き続き、KK<sup>2</sup>オンラインイベントコンシェルジュによる最適なサービスのご提案、ご利用者の業務負荷軽減を含めた支援を行い、スタジオ148回、ラウンジ243回、エキスパート倶楽部11回の貸出を行い、7,425名にご利用をいただきました。

ご利用事例： **ハイブリッド型研修** ＊会場・Zoom同時通訳音声配信あり  
**【申込決済ページ提供・会場利用・ライブ配信・オンデマンド】**

会場 約50名 Zoomウェビナー視聴者約300名

**準備**  
 有料・無料セミナー申込ページ作成(クレジット決済機能あり)  
 当日用Zoomウェビナー作成(同時通訳機能あり)、  
 申込者データ管理、会場設営、

**当日**  
 講演会場、Web会議操作補助、  
 収録オペレーション

**事後**  
 動画編集、オンデマンドページ作成 (有料視聴環境)



ラウンジ (同通ブース)

スタジオ本会場 (レシーバー聴講)

オンライン (Zoomウェビナー視聴)

令和5年度は新サービスとして、来日可能となった海外ゲストによる講演を会場の方にはレシーバー、オンライン参加の方にはZoomで通訳音声配信する「ハイブリッド同時通訳」サービスを提供しました。また、ご利用者からご要望をいただき令和5年11月にはオンデマンド動画視聴の有料決済機能をリリースしました。

さらに、令和5年7月にはKK<sup>2</sup>Webサイトのレンタルスペースのページに「KK<sup>2</sup>レンタルスペースAIコンシェルジュ」を新設し24時間・365日、お問い合わせに対応できるようにしました。お問い合わせのハードルが下がることで今まで把握できていなかったニーズや、商品・サービス紹介のわかりづらいポイントなどを収集することができ、改善策を立案しやすくなりました。現在、お客様からの質問とAIによる自動返答ログデータが1,000件以上蓄積されています。カテゴリとしては「アクセス情報」「料金情報」「施設利用時間」「サービス内容」「予約方法」が上位となっており、これらの傾向に基づき、顧客満足度を更に向上させるために今後検討していきます。

令和4年4月より提供している[3Dバーチャル見学Webページ](#)も「スタジオ」「エキスパート倶楽部」に加えて、「ラウンジ」を令和5年10月に公開しました。高画質360度カメラで撮影したレンタルスペースを様々な角度からバーチャルに移動しご見学をしていただくことができます。

コロナ禍への対応のため作成した「新しい生活様式」は、令和5年5月に5類への移行を受けて内容の見直しを行い、令和5年7月以降は「[霞が関ナレッジスクエアの感染症対策](#)」として見直しを行いKK<sup>2</sup>Webサイトで公開しています。また、令和5年8月には[レンタルスペース利用規約](#)の見直しを行い、一部時間外利用料金の変更、キャンセル期限の変更を行いました。

### (3) デジタル情報発信・運営の支援

Webサイトでの情報発信や、メールの運用、問合せの運用など、対外への情報発信や内部での運用に課題のある組織の方のご相談にのり、運用支援を行います。令和5年度は以下について行いました。

- ・一般財団法人 警察大学校学友会 様 ホームページ運用業務  
ホームページの更新作業、更新の提案など（メディアリンク）
- ・全国重症心身障害児(者)を守る会 様 Webサイト運用業務  
お客様による更新作業の支援、サーバー管理、問い合わせ対応
- ・星光ビル管理株式会社 様 サーバ運用業務（メディアリンク）

### (4) デジタル人材育成の支援

人材育成のイベント・研修（対面・オンライン）、研修施設の運用に課題のある組織の方のご相談にのり、運用支援を行います。令和5年度は、イベント・研修の開催運営支援やWeb会議を使用した配信の技術支援を行いました。また、研修施設の運営を技術面、運用管理面で支援を行いました。引き続き組織のAdvanced Valuable Communicationの推進を全面的に支援して参ります。

- ・ニッセイ情報テクノロジー株式会社様 NISSAY IT アカデミー業務

## VI ステークホルダーとの関係

### (1) AVCC賛助会、KK<sup>2</sup>協賛メンバーとの連携強化

AVCC賛助会、KK<sup>2</sup>協賛メンバーをはじめご支援いただいている皆さまへ各年の事業テーマに則した講演会を開催しています。令和5年度は、5月26日(金)に2部構成で、[AVCCの令和5年度事業説明](#)と、山本龍彦氏（慶應義塾大学大学院法務研究科 教授/近著「デジタル空

間とどう向き合うか」) をゲストにお迎えし「[第5回デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～](#)」を開催しました。山本龍彦先生にお話いただいた、偏った情報ばかり摂取することで損なわれる「情報の健康」はデジタル社会における大変重要なテーマを示唆していただきました。



図-23 デジタルTERA小屋 山本龍彦講師



図-24 第1部 AVCC事業説明風景

第1部は令和5年度AVCC事業「自治体DX推進支援事業」「IoT道場～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！」について各担当の部長よりご説明をさせていただき、第3部は「AVC (Advanced Valuable Communication) タイム」として、AVCC新規事業「テレポーサイ・サービス～誰も置き去りにしないデジタル社会の実現に向けて～機能説明・実演～」 「IoT道場 ～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！～」のデモンストレーションを行いました。会場に83名、ライブ配信で68名の方にご参加いただきました。

## (2) MOU締結組織

AVCCと相互協力協定(MOU)を締結している団体には、KK<sup>2</sup>プログラムの企画・開発や、AVCCコンサルティング事業の支援、デジタル公民館®活動への協力など、多方面でご協力をいただいています。令和5年度もご協力をいただきました。

### 「MOU締結組織一覧」

一般社団法人 話力総合研究所

株式会社タフ・ジャパン

株式会社テラユナイテッド

社会福祉法人 むそう

やねだん自治公民館 (鹿児島県鹿屋市串良町柳谷(やねだん))

社会福祉法人 スマイリング・パーク

一般社団法人 長洞元気村

NPO法人「居場所」創造プロジェクト（居場所ハウス）

## -1 多様な方たちの働く場 交流カフェ「エキスパート倶楽部」～シェア型書店機能を新設～（むそう様）

エキスパート倶楽部の一般営業（ランチ・カフェ業務）は、障害のある方達の働く拠点の一つとして社会福祉法人むそう様に運営協力をいただいています。

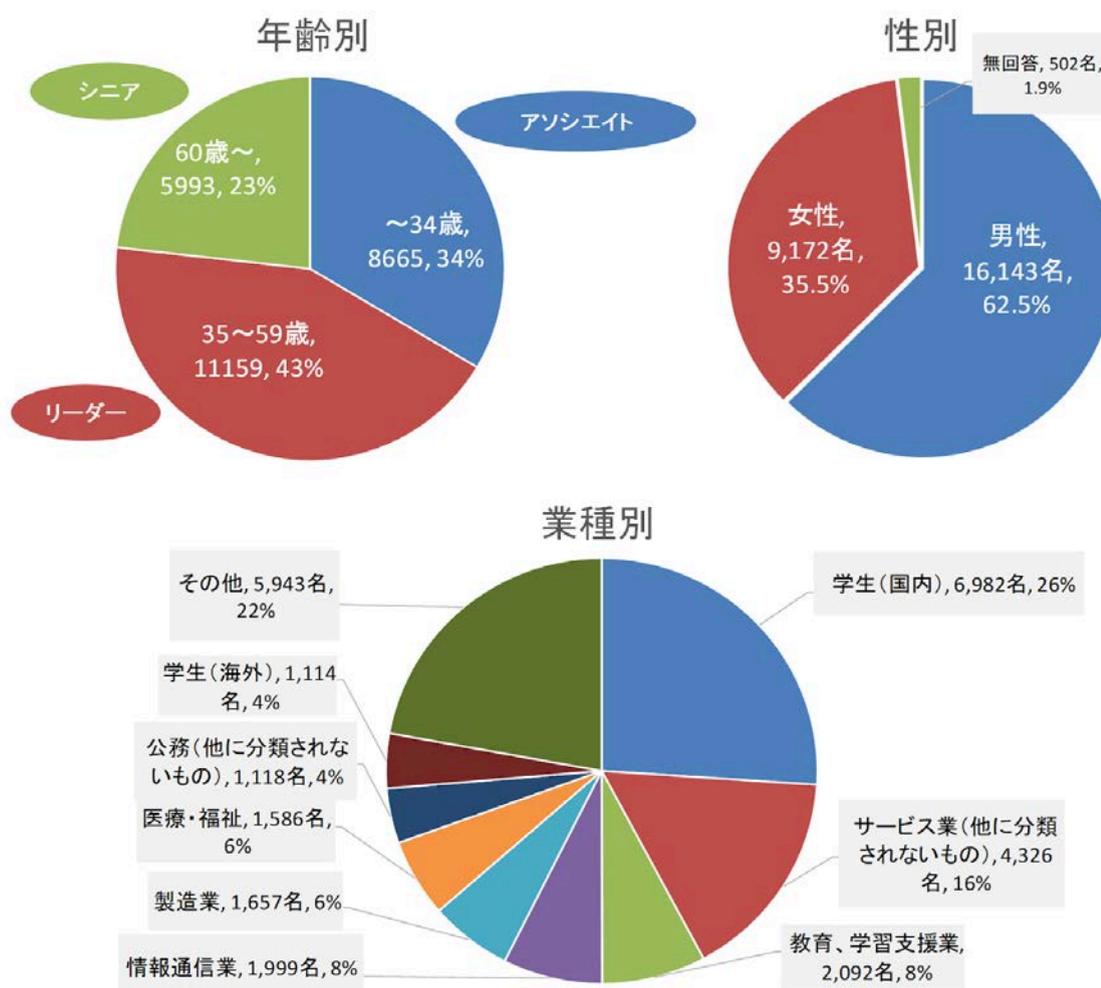
令和5年度は、令和5年4月に棚貸し本屋・アートギャラリーとして、交流カフェ「エキスパート倶楽部」内に「[CuBookGallery](#)」を新設しました。むそう様の情報発信やオリジナルの物販の棚も設置し「いつでも、好きな場所で暮らし、たいせつな人と、したいことができる街を作りたい。」というコンセプトの発信・交流



の場として9月よりカフェ時間の営業を18時まで延長しました。現在、棚貸しを利用している方は1名となっており、今後告知活動を積極的に行う必要があります。

### (3) KK<sup>2</sup>Web会員

KK<sup>2</sup>Web会員は、アソシエイト、リーダー、シニアの3つの年代層、職種も多様な方々です。世代を超えた多くの方に学びの場として活用いただけるよう、魅力ある学びのプログラムを推進し、KK<sup>2</sup>Web会員の皆さまが学びの一步を踏み出し、実際に行動を起こしていただけることを目指して活動を行っています。令和6年3月31日現在の会員登録者数は26,817名となりました。内訳は次の通りです。



### (4) 文部科学省発行「マナビィ・メールマガジン」定期掲載

文部科学省総合教育政策局が発行する生涯学習関連情報のメールマガジンにKK<sup>2</sup>プログラムの紹介記事を寄稿しています(毎月2回 8日号/24日号)。令和5年度も22回掲載をしていただきました。KK<sup>2</sup>の記事は「読まれた記事ランキング」に入ることも多く、特にIoTやコミュ

ニケーションをテーマにした記事が人気です。読者の方にも学びの場としてご活用いただきました。

掲載日	掲載号	タイトル
令和5年4月8日	285号	新着動画 初心者にもわかりやすく！動画で学べる「坐禅のポイント」第十二回 霞が関坐禅会
令和5年4月24日	286号	おすすめ動画 「モノづくり」を通じて子供から大人シニアが交流！皆さんの地域でもやってみませんか？「竹とんぼ教室」
令和5年5月24日	287号	新着動画 「災害大国日本で考える、人権と尊厳」 ～災害医療スペシャリスト 石井 美恵子さんと共に災害時の自助・共助・公助について考えてみませんか～
令和5年6月8日	288号	新着動画 「情報的健康的について—アテンション・エコノミー—にどう向き合うか」 ～憲法学者 山本龍彦さんと共に、デジタル社会における私たちの生き方について考えてみませんか～
令和5年6月24日	289号	新着動画 障がい者「が」働く、障がい者「と」働く ～35歳で突然、内部障がい者になった俣野さんの治療と仕事の両立、受容への葛藤とは～
令和5年7月8日	290号	受講受付中 自学自習で学ぶ初心者向けプログラミング講座 IoT道場～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！～ 「Python基礎講座（無料）」TAVが学びをサポートします！
令和5年7月24日	291号	新着動画 「野菜を伝える、野菜で伝える ～田畑は人も育つ場所～」野菜のこと、農家のこと、どのくらい知っていますか？ 学校・飲食店・企業と連携する福島県の農業家 設楽哲也さんのトークライブ動画公開！
令和5年8月8日	292号	ChatGPTを活用したAIサポート機能を搭載しました 無料で学べるプログラミング入門講座 IoT道場 ～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！～
令和5年8月24日	293号	おすすめ動画 「障がい当事者が語る！コミュニケーションのバリアフリー～障がいのある方とのコミュニケーションのポイントを学ぶ！
令和5年9月8日	294号	おすすめ動画 関東大震災から100年 災害への備えをみんなで考えよう！あなたはどう行動しますか？おすすめ防災プログラムをご紹介
令和5年9月24日	295号	おすすめ動画 「クレジットカードって何？」～世代を超えて学ぼう！マネーリテラシー初級講座～
令和5年10月8日	296号	新着動画 ChatGPTに出来ること、人間にしか出来ないこと。弁理士、黒瀬泰之さんに聞いてみた！ 『深く考えられる人間になろう～発明者の想いを形にする「弁理士」のChatGPT活用法～』
令和5年10月24日	297号	おすすめ動画 実質賃金がマイナスの時代だからこそ株式投資について学んでみませんか？「株式投資を始める前の疑問」
令和5年11月8日	298号	「介護離職しない・させない！～ビジネスパーソンが知っておきたい『親の介護』のこと～」
令和5年11月24日	299号	「アサーション」で築く素敵な人間関係～わたしもOK あなたもOK のコミュニケーション～
令和5年12月8日	300号	おすすめ動画 障がい当事者が語る！コミュニケーションのバリアフリー～障がいのある方とのコミュニケーションのポイントを学ぶ！～
令和5年12月24日	301号	自宅で母と夫を看取り、一人になってしみじみ思うこと ～「介護」が愛おしい～
令和6年1月24日	302号	災害大国日本で考える、人権と尊厳 第4回 デジタルTERA小屋 石井美恵子さん（国際医療福祉大学大学院 災害医療分野教授）
令和6年2月8日	303号	おすすめ動画 「落語の舞台から見た法律」～落語で楽しく学ぶ法律入門講座～
令和6年2月24日	304号	「Python基礎講座（無料プログラム）」 ～35歳から59歳の働きざかりの方たちが自学自習中！～
令和6年3月8日	305号	おすすめ動画 「40歳からの結晶性能力の伸ばし方」を学んで人生100年時代を心豊かに生きましょう！
令和6年3月24日	306号	おすすめ講座 新ビジネスパーソン必見！自信のある方も再確認！「大丈夫？あなたのことばづかい」

## (5) 霞が関7号館PFI株式会社との事業連携

KK<sup>2</sup>が入居する霞が関コモンゲートを運営する霞が関7号館PFI株式会社は令和4年12月に  
出資者が変更になり東京建物株式会社が代表者を務めることになりました。KK<sup>2</sup>事業の計画・  
報告を年2回霞が関7号館PFI株式会社を經由して文部科学省に報告を行っています。新たな  
スキームになり、事業連携を進めていくために令和6年1月に共有会議を開催し、デジタル公  
民館活動の推進にご協力いただける方向で合意をいただきました。令和5年度はKK<sup>2</sup>プログラ  
ムやレンタルスペースのご案内をテナント様にお送りいただき、KK<sup>2</sup>事業の告知に協力をして  
いただきました。

## (6) 「千代田区霞が関三丁目町会」活動（東京都千代田区）

KK<sup>2</sup>は企業町内会「霞が関三丁目町会」に加入し、千代田区霞が関のデジタル公民館®と  
して、町会の企業・組織の従業員の方たちの交流の場づくりに協力しています。令和5年度も  
町内会の活動に協力し交流を深めるために協力しました。年2回の観桜会、観楓会への参加、  
千代田区の防災備蓄品の申請にあたっては町会の推薦をいただきました。

## (7) 社会への情報発信

KK<sup>2</sup>事業について各種SNSで、Web会員以外の方々へ情報発信を行っています。令和5年度  
も引き続き情報発信を行いました。SNSでの発信にあたっては「[霞が関ナレッジスクエア  
ソーシャルメディアポリシー](#)」に則って行っています。

KK<sup>2</sup>公式Facebook <https://www.facebook.com/KK2kasumigaseki/>

KK<sup>2</sup>公式Twitter <https://twitter.com/KK2Kasumigaseki>

KK<sup>2</sup>公式Instagram <https://www.instagram.com/kk2kasumigaseki/>

KK<sup>2</sup>公式YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/@KK2>

また雑誌『社会教育』（一般財団法人日本青年館発行）[2023年12月号「特集：『まちの学  
びのスポット』」](#)に「いつでも、どこでも、誰でも学べる『デジタル公民館』霞が関ナレッジ  
スクエア（KK<sup>2</sup>）」を寄稿しました。

## (8) KK<sup>2</sup>自主企画プログラムと述べ参加者数

令和5年度は、自主企画でのプログラム開催、動画プログラム開発について73件実施しました。プログラム開催の述べ参加者数は、リアルでのKK<sup>2</sup>会場での参加者が634名、リモートでの参加者が354名です。また、動画視聴者/Web実施者が3,441名、合計述べ4,429名の方に参加・学習していただきました。

プログラム内容	実施回数 および コンテンツ数	リアル 会場 参加者	リモート 参加者	属性内訳			動画視聴者数/ Web実施者	合計
				メンバー	Web会員	一般		
AI社会を生きる力を考える								
AVCC&KK <sup>2</sup> 事業説明会/特別講演会	1	83名	68名	91名	101名		80名	231名
個人の「レジリエンス」を学ぶ								
KK <sup>2</sup> キャリア相談室	14	4名	10名	1名	13名			14名
霞が関坐禅会	3	38名		14名	24名		398名	436名
まちの防災発見ツアー	2	31名		15名	16名		88名	119名
組織・地域を担うしごと力を学ぶ								
しごとカ向上ライブラリ	17						1,392名	1,392名
デジタルTERA小屋	5	175名	169名	189名	149名	6名	848名	1,192名
デジタル活用カチェック	1						342名	342名
デジタルしごとカチェック	1						99名	99名
コンピテンシー・チェック	1						38名	38名
IoT道場 基礎編	13						75名	75名
IoT道場 応用編	12						3名	3名
文化に親しみ交流する								
霞が関寄席	3	303名	107名	113名	192名	105名	177名	587名
<b>合 計</b>	<b>73</b>	<b>634名</b>	<b>354名</b>	423名	495名	111名	<b>3,441名</b>	<b>4,429名</b>

## Ⅶ 運営に関する事項

### (1) 役員名簿

理事長	久保田了司	当財団代表理事	
常務理事	久保田庸弘	当財団業務執行理事	
理事	清水 康敬	東京工業大学 名誉教授	
	永岡 慶三	早稲田大学 名誉教授	
	伊東信一郎	ANAホールディングス株式会社 特別顧問	
	佐野 元昭	株式会社ケイ・アイ・エス情報科学研究所 代表取締役社長	
	伊庭野基明	グローバルキャリアカウンセラービジネスコーチ	
	田中 純一	一般社団法人ビル減災研究所 代表理事	
	平田 英世	富士通株式会社 元シニアアドバイザー	
	秋田 義一	一般社団法人話力総合研究所 代表理事	
	監事	鈴木 重文	弁護士
	評議員	米里 文明	株式会社インフィニトラベルインフォメーション 元代表取締役社長
稲葉 徹		センクシア株式会社 前社外役員	
大串 夏身		昭和女子大学 名誉教授	
唐澤 誠		株式会社唐澤誠建築音響設計事務所 代表取締役	
近藤 孝夫		株式会社同学社 代表取締役	
野田 弘子		プロビティコンサルティング株式会社 代表	

### (2) 会議の開催

#### -1 第1回理事会 (通常)

開催日：令和5年6月8日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和4(2022)年度事業報告書・決算報告書

(株)メディアリンクへの業務委託報告

#### -2 第1回評議員会 (定時)

開催日：令和5年6月23日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和4(2022)年度事業報告書・決算報告書

(株)メディアリンクへの業務委託報告

役員報酬について

### **-3 第1回 事業連携会議 (PFI)**

開催日：令和6年1月12日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和5(2023)年度 霞が関ナレッジスクエア上期報告

事業協力体制の確認

### **-4 第2回理事会 (通常)**

開催日：令和6年3月12日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和6(2024)年度事業計画書・収支予算書

(株)メディアリンクへの業務委託予定

### **(3) 会員等 (令和6年3月)**

賛助会員：39団体

協賛メンバー：30団体

法人メンバー：1団体

Web会員：25,817名

#### **【令和5(2023)年度事業報告の附属明細書について】**

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載するべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上